

根岸西遺跡 2

主要地方道日立笠間線道路改築
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 24 年 3 月

茨城県高萩工事事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第357集

ね ぎ し に し い せ き 根岸西遺跡 2

主要地方道日立笠間線道路改築
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 24 年 3 月

茨城県高萩工事事務所
財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では、市町村や県の枠を越える広域的な交流と連携を進めるため、また県土の均衡ある発展を支える基盤として、その骨格となる一般国道や主要地方道などの幹線道路網の整備が進められています。

その一環として整備される主要地方道日立笠間線は、国道6号のバイパス機能、緊急避難道路及び山火事等の防災機能を有する道路として極めて重要な役割を果たすものです。しかしながら、この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である根岸西遺跡が所在することから、記録保存の措置を講じる必要があるため、当財団が茨城県高萩工事事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成16年7月から9月までの3か月間にわたりこれを実施しました。その成果は既に当財団の『文化財調査報告』第261集として刊行したところです。

本書は、平成23年1月から3月までの3か月にわたって調査を実施した成果を取録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者であります茨城県高萩工事事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、日立市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成24年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木 欣一

例 言

- 1 本書は、茨城県高萩工事事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成23年1月から3月に発掘調査を実施した、茨城県日立市大久保町字根岸2473番地11ほかに所在する根岸西遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査	平成23年1月1日～3月31日
整理	平成23年4月1日～6月30日
- 3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	仲村浩一郎
主任調査員	市村俊秀
主任調査員	長津盛男
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、主任調査員長津盛男が担当した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅹ系座標に準拠し、X軸 = + 62,107.013 m、Y軸 = + 70,076.731 mの交点を基準点(A 1a1)とした。この原点は、世界測地系による基準点である。

なお「根岸西遺跡 主要地方道日立笠間線道路改築工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第261集の凡例にて報告した基準点に誤記があるので下記の様に訂正する。

(誤)

X軸 = + 62,120.0 m

Y軸 = + 70,120.0 m

(正)

X軸 = + 62,107.013 m

Y軸 = + 70,076.731 m

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1区」「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3、…・0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」「B 2b2区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P-ピット SD-溝跡 SF-道路跡 SI-竪穴住居跡 SK-土坑

遺物 DP-土製品 M-銅製品 Q-石器・石製品 TP-拓本記録土器

土層 K-攪乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構部分図は400分の1、各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・赤彩・施軸

 火床面

 窯部材・粘土範囲・黒色処理

●土器 ○土製品 □石器・石製品 △銭貨 --- 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm、cm、kg、gである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率や写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 竪穴住居跡の「主軸」は、竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

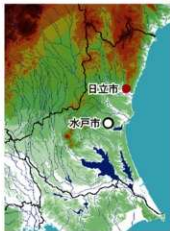
目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
根岸西遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	11
第1節 遺跡の概要	11
第2節 基本順序	11
第3節 遺構と遺物	12
1 縄文時代の遺構と遺物	
土坑	12
2 平安時代の遺構と遺物	51
竪穴住居跡	51
3 中世の遺構と遺物	55
(1) 溝跡	55
(2) 土坑	59
(3) 道路跡	59
4 その他の遺構と遺物	60
(1) 土坑	60
(2) 遺構外出土遺物	62
第4節 まとめ	66
写真図版	
抄 録	

ね ぎし にし い せき がい よう 根岸西遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

根岸西遺跡は、日立市の南部に位置し、太平洋を望む多賀山地東端の舌状台地上、標高70～75mの斜面部に所在しています。当遺跡が主要地方道日立笠間線道路改築事業地内に所在することから、遺跡の内容を図や写真に記録するために、茨城県教育財団が平成16年度に第1次調査、今回は第2次調査を実施しました。



東側上空から見た根岸西遺跡 斜面部に位置していることがよく分かります。

調査の内容

調査では、竪穴住居跡1軒（平安時代）、土坑73基（縄文61、中世1、時期不明11）、溝跡4条（中世）、道路跡1条（中世）を確認しました。

出土した主な遺物は、縄文土器（深鉢・鉢・浅鉢）、土師器（環・高台付環・高台付椀・甕・甑）、陶器（丸椀・天目茶碗）、きのご形土製品、石器・石

製品（くわ 鍬・だせいせきふ 打製石斧・ませいせきふ 磨製石斧・いしぼら 石皿・すりいし 磨石・ぼがいし 凹石・せつげん 石剣）などです。また坏つぎに「王」と書かれた墨書土器も出土しています。



第165号土坑から出土した縄文土器



復元した第165号土坑の縄文土器



出土した凹石兼石皿で重さは178kgです



調査区完振状況（北側から）

調査の結果

調査の結果、縄文時代、平安時代、中世の各時代の遺跡であることが分かりました。

縄文時代の土坑群は、主に集落（住居跡）の貯蔵施設や廃棄施設として利用されていたと考えられます。出土した土器は、後期初頭から後期前葉にかけてのものがほとんどで、特に東北地方南部の特徴をもつ土器が多く出土しました。

さらに、平安期時代の住居跡も竈の煙道部が長いなど、東北地方の影響を受けていることがわかりました。

このことから、当集落の人々は、東北地方の人々との交流が盛んだったことがうかがえます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県高萩工事事務所は、日立市大久保町において、交通の円滑化をはかるために主要地方道日立笠間線道路改築事業を進めている。

平成22年4月22日、茨城県高萩工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、主要地方道日立笠間線道路改築事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成22年5月18日に現地踏査を行い、平成22年6月1日に試掘調査を実施し、根岸西遺跡の所在を確認した。平成22年6月25日、茨城県教育委員会教育長から茨城県高萩工事事務所長あてに、事業地内に根岸西遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成22年10月22日、茨城県高萩工事事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知が提出された。現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成22年11月11日、茨城県教育委員会教育長から茨城県高萩工事事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成22年11月22日、茨城県高萩工事事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、主要地方道日立笠間線道路改築事業地内に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。同日、茨城県教育委員会教育長から茨城県高萩工事事務所長あてに、根岸西遺跡の発掘調査範囲及び面積等について回答した。また、あわせて調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県高萩工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成23年1月1日から平成23年3月31日までの計画で発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

根岸西遺跡の調査は、平成23年1月1日から3月31日までの3か月間にわたって実施した。以下、その概要を記載する。

工程	月	1月	2月	3月
調査準備 土構遺構 撤去確認		■		
遺構調査		■	■	■
遺物洗浄 写真整理			■	■
補足調査 撤収				■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

根岸西遺跡は、茨城県日立市大久保町 2473 番地 11 ほかに所在している。

日立市は、県の北東部、久慈川以北に位置し太平洋に面している。市域の市勢は、西部の約 6 割を多賀山地が占めている。多賀山地は、阿武隈高地の南端にあたり、古生代の花崗岩質岩石や変成岩で構成され、頂上部が比較的なだらかなドーム状の山地である。その周縁部には 500 ～ 150 万年前の更新世多摩期の海進によって形成された標高 70 ～ 150 m の頂部平坦面をもつ丘陵が分布している。丘陵部から海岸部までは 12 ～ 13 万年前の下末吉海進最盛期以降に形成された段丘状の地形が、太平洋に沿って幅 1.5 ～ 2 km の帯状に広がっている¹⁾。この台地上を宮田川・鮎川・桜川・大川・金沢川などの中小河川が東流し、樹枝状に谷津を発達させている。

また市域南端部の久慈川下流域は、関東平野の最北部にある沖積低地である。約 2 万年前の更新世最終水期に深さ約 60 m の谷地形が開析され、その後の縄文海進期の内湾性堆積物や久慈川の河川堆積物が、標高 5 m 以下の低平な平野部を形成している。

地質は、多賀山地の神峰山・高鈴山以南が粘板岩、雲母片岩、角閃岩などを主とする日立変成岩類、以北が花崗岩類で構成され、当地域の基盤層となっている。丘陵部や台地部では、その基盤層の上部に厚さ約 5 m の海成砂層や変成岩類の角礫からなる斜面堆積物が認められ、これを鹿沼軽石層を中に挟む関東ローム層が覆っている²⁾。

当遺跡は、J 常磐線常陸多賀駅から西に 1.5 km、多賀山地東端の太平洋に面する桜川と大川に挟まれた標高 70 ～ 75 m の舌状台地上に立地している。今回の調査区域は、台地の斜面部にあたり、調査区の北側から南東に向かって緩やかに傾斜している。調査前の現況は雑種地である。

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺の多賀山地東麓の台地から海岸台地にかけては、旧石器時代から中世にかけての遺跡が数多く所在している。ここでは、当遺跡周辺の主な遺跡について概観する。

旧石器時代の遺跡は、日立市域では鹿野場遺跡、泉前遺跡、六ツヶ塚遺跡、宮脇 A 遺跡などの調査例³⁾がある。鹿野場遺跡では、礫器、搔器、石刃、泉前遺跡では搔器、石刃、尖頭器、六ツヶ塚遺跡ではナイフ形石器、搔器などが出土している。

縄文時代の遺跡は、多賀山地東麓の台地上や山沿いの地域に多く所在している⁴⁾。草創期は、堂の下遺跡で尖頭器、西大塚遺跡で有舌尖頭器が出土している。早期は、台地上のほかに山地の頂部平坦面にも遺跡が点在し、鹿野場遺跡で縄島台式～茅山式期の住居跡が確認されているほか、遠下遺跡、大近平遺跡で当期の住居跡が見つかっている。前期になると台地上の集落形成が顕著になり、泉原遺跡、前原遺跡などの規模の大きい集落が形成されるようになる。また、泉原貝塚の調査では、海水の砂泥底に生息するハマグリ、アサリ、サルボウのほか、汽水域に生息するヤマシジミなどの貝殻が出土している⁵⁾。これらの貝類の生息環境から、貝塚周辺の低地部が干潮時には干潟になるような入り江であったと推定される。中期から後期前半にかけては遺跡数が急増する。市域では小河川に区切られた台地ごとに集落が分布しており、相互補完的なあり方を示し、

諏訪遺跡〈10〉上の内遺跡〈12〉、吉五郎台遺跡〈15〉などが確認されている。諏訪遺跡からは30基のフラスコ状土坑が検出され⁶¹、多数の土器とともに石器や炭化したクルミなどが出土している。出土土器は、県北地域における中期前半の様相を良好に示す一群として、「スワタイプ」⁶²あるいは「諏訪式」⁶³と仮称される標識資料となっている。上の内遺跡では中期後半から後期前半の竪穴住居跡129軒や土坑1,496基などが確認され、県内でも有数の大規模集落であることが明らかになっている⁶⁴。また、当遺跡に隣接する宮の後遺跡〈3〉、十王堂遺跡〈4〉でも縄文時代の遺構が確認されている。宮の後遺跡では中期前半のフラスコ状土坑⁶⁵が、十王堂遺跡では中期後半から後期前半の竪穴住居14軒、フラスコ状土坑15基、円筒形土坑7基がそれぞれ確認されている。当遺跡でも平成16年の調査で、縄文時代中期後半から後期前半の竪穴住居跡13軒、土坑28基（内フラスコ状土坑1基）が確認されている⁶⁶。市域では後期後半以降、遺構数は減少し、晩期には激減する傾向が見られる。晩期の遺構としては、上の台遺跡、大沼遺跡〈28〉などがある。

弥生時代の遺跡は、海岸台地上に点在している⁶⁷。大沼遺跡では中期前半の弥生土器片が採集されており、県内における弥生文化開始期の土器として注目されている。

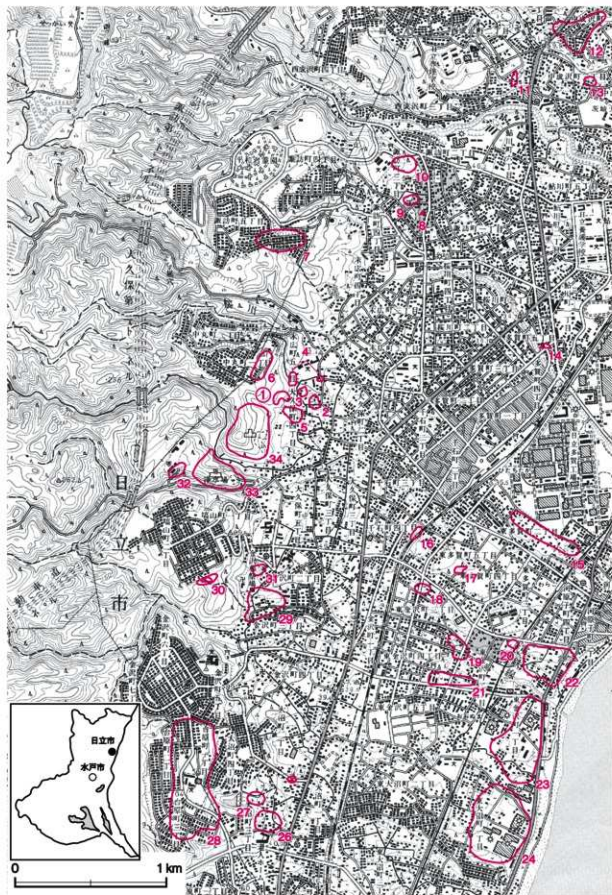
奈良・平安時代の日立地方は久慈郡箕月（密月・高月・蜜月）郷・助川郷・武市郷及び多賀郡（梓部郷）に属し、9世紀初頭まで活発に行われた蝦夷征伐の交通路として重要な役割を担っていたと考えられる⁶⁸。当遺跡は、久慈郡箕月郷の西部に位置している。当時代の遺跡は、当遺跡や、十王堂遺跡、泉前遺跡、諏訪遺跡、志々前遺跡〈23〉などで集落が確認されている。当遺跡では前回の調査から⁶⁹、10世紀前半の竪穴住居跡7軒、十王堂遺跡では9世紀後半から10世紀中葉にかけての竪穴住居跡6軒、泉前遺跡では鍛冶工房を含む竪穴住居跡36軒や掘立柱建物跡8棟が見つかっており、諏訪遺跡では「満」「□家」「具」などと墨書された土器の坏が出土している。また当遺跡周辺では竪跡が確認されており、成沢竪跡〈11〉は須恵器竪跡、石内竪跡〈8〉は瓦竪跡であることが知られている。

中世では、滑川浜館遺跡、要害遺跡、金沢館跡〈29〉、大窪愛宕山城跡〈33〉、大窪天神山城跡〈34〉、大窪城跡などの城館跡がある。当遺跡の南西に位置する大窪愛宕山城跡・大窪天神山城跡・大窪城跡⁷⁰は、佐竹氏の家臣（宿老）として活躍した大窪氏の居城である。平安末期、常陸大掾平忠幹の九男宗幹が愛宕山に居館を構えたのが始まりとされ、応永年間（1394～1428）奥州の石川詮光の三男茂光を養子に迎えた頃、大窪氏を名乗り、天神山に城を移したとされている。天正年間（1573～1585）に入り大窪城が築かれ、佐竹氏の秋田移封を契機に廃城となっている。大窪城の跡地には天保10年（1939）に水戸藩の藩校である暇修館が置かれ、現在、建物が復元されている。

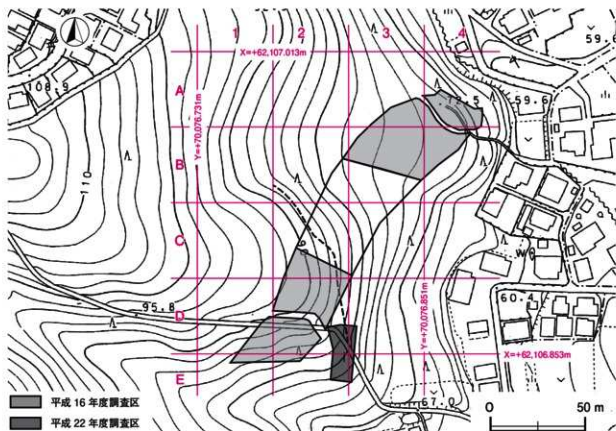
本文中の（ ）内の番号は、表1及び第1図の該当番号と同じである。

表1 根岸西遺跡周辺遺跡一覧表

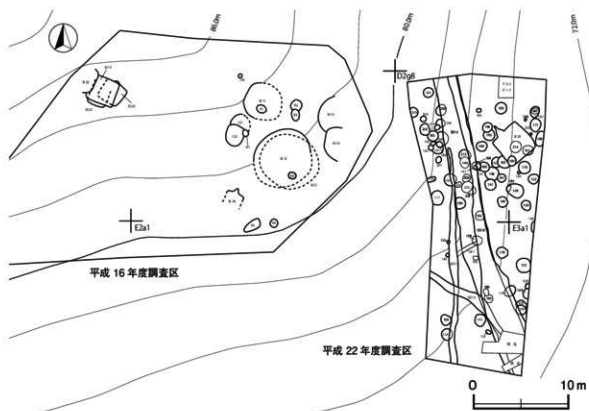
番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	根岸西遺跡		○			○		18	屋代遺跡					○			
2	根岸遺跡		○					19	弁才天遺跡		○		○				
3	宮の後遺跡		○			○		20	西の内遺跡					○			
4	十王堂遺跡		○	○		○	○	21	高野遺跡		○		○				
5	堀内遺跡		○			○		22	天神後遺跡		○		○				
6	中丸遺跡		○	○				23	志々前遺跡		○		○	○			
7	小咲台遺跡		○					24	殻貝尻遺跡		○		○	○			
8	石内窯跡					○		25	大沼窯跡					○			
9	久保遺跡		○			○		26	若宮遺跡		○		○				
10	諏訪遺跡		○			○		27	仲道遺跡		○						
11	成沢窯遺跡					○		28	大沼遺跡		○	○		○			
12	上の内遺跡		○					29	金沢館跡							○	
13	池の川遺跡		○			○		30	北向後塚群								○
14	下孫一里塚遺跡						○	31	寺前遺跡		○	○	○	○			
15	吉五郎台遺跡		○		○	○		32	梅ヶ丘遺跡		○		○				
16	天王遺跡		○			○		33	大窪愛宕山城跡							○	
17	太子谷遺跡		○	○				34	大窪天神山城跡							○	



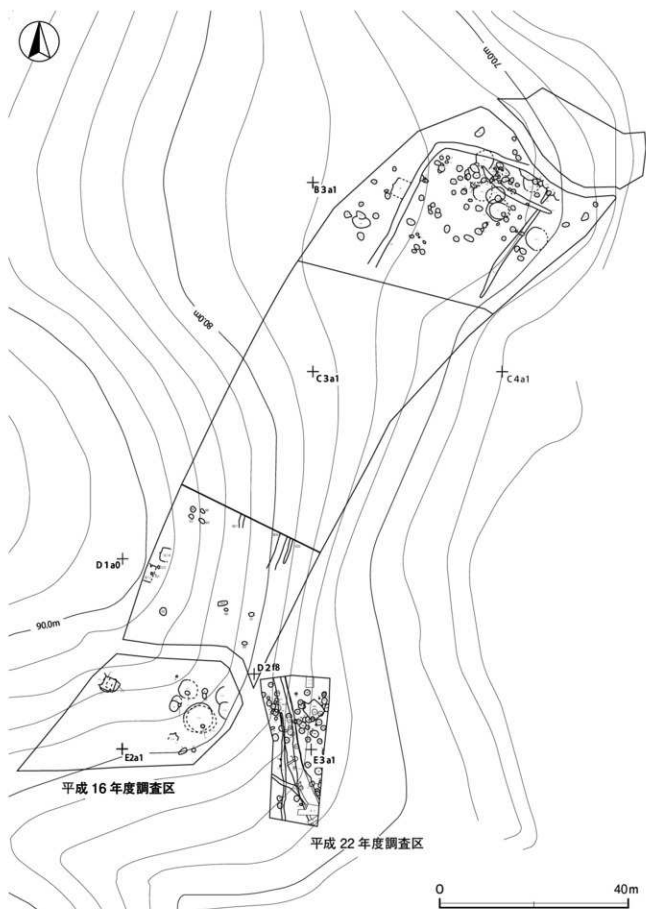
第1図 根岸西遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「日立南部」）



第2図 根岸西遺跡調査区設定図(都市計画図 日立南部 2,500分の1)



第3図 根岸西遺跡遺構部分図



第4図 根岸西遺跡遺構全体図

註

- 1) 日上市史編さん委員会 『新修 日上市史』上巻 1994年9月
茨城県農地局農地計画課 『土地分類基本調査 日立 5万分の1』1995年3月
- 2) 註1に同じ
- 3) 茨城県考古学協会 『茨城県における旧石器時代研究の到達点-その現状と課題-』2002年12月
- 4) 日上市史編さん委員会 『新修 日上市史』上巻 1994年9月
- 5) 日上市教育委員会 「泉原貝塚発掘調査報告書」『日上市文化財調査報告』第45集 1998年5月
- 6) 諏訪遺跡発掘調査団 「諏訪遺跡発掘調査報告書」『日上市文化財調査報告』第7集 日上市教育委員会 1980年3月
- 7) 鈴木裕芳 「諏訪遺跡出土土器群の再検討」『茨城県史研究』59 茨城県立歴史館 1987年10月
- 8) 海老沢稔 「茨城県内における縄文時代中期前半の土器様相(2)-諏訪式土器について-」『優良岐考古
古同人会 1984年4月
- 9) 湯原勝美ほか 「上の内遺跡発掘調査報告書」『日上市文化財調査報告書』第46集 日上市教育委員会 1998年3月
小川和博 「上の内遺跡発掘調査報告書」『日上市文化財調査報告書』第61集 日上市教育委員会 2002年3月
- 10) 日上市教育委員会 「宮の後遺跡発掘調査報告書」『日上市文化財調査報告』第48集 2001年3月
- 11) 齋藤貴史・清水 哲 「十王堂遺跡-主要地方道日立笠間線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団
文化財調査報告』第332集 2010年3月
- 12) 渡邊浩実 「根岸西遺跡-主要地方道日立笠間線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査
報告』第261集 2006年3月
- 13) ~14) 註4に同じ
- 15) 註12に同じ
- 16) 青木義一 「6 大久保三城」『図説 茨城の城館』茨城県城郭研究会 2006年8月

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

根岸西遺跡は、日立市南部に位置し、太平洋を望む多賀山地東端の桜川と大川に挟まれた標高70～75mの斜面上に立地している。

平成16年度調査の結果、当遺跡は縄文時代から奈良・平安時代にかけての複合遺跡であることが確認されている。今回の調査区は、前回調査区の南東部に隣接している。

確認された遺構は、堅穴住居跡1軒（平安時代）、土坑73基（縄文61、中世1、時期不明11）、溝跡4条（中世4）、道路跡1条（中世）を確認した。

遺物は遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に25箱出土している。主な遺物は縄文土器（深鉢・鉢・浅鉢・注口部をもつ鉢形）、土師器（坏・高台付坏・高台付椀・甕・甌）、陶器（丸椀・天目茶碗）、土製品（土器片円盤・きのこ形土製品）、石器・石製品（剥片・石鏃・打製石斧・磨製石斧・石皿・磨石・石錘・凹石・石剣）などが出土している。また坏の墨書土器も出土している。

第2節 基本層序

調査区北部の（D2g0区）にテストピットを設定し、深さ2.6mまで掘り下げて基本層序の確認を行った。土層は7層に分層できた。土層の観察結果は以下の通りである。

第1層は、黒褐色を呈する現地表の表土である。ロームブロック、焼土炭化物を少量含み、層厚は26～33cmである。

第2層は、暗褐色を呈するローム層への漸移層である。ロームブロックを少量含み、層厚は8～30cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。白色スクリア粒子を微量含み層厚は4～10cmである。

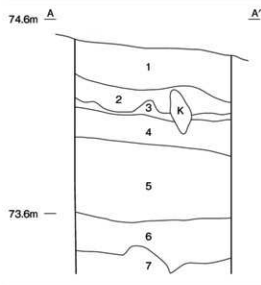
第4層は、灰黄褐色を呈するハードローム層である。細礫を多量に含みしまりが強く、層厚は24～36cmである。

第5層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。ローム粒子を多量、礫を中量含み、しまりが強く、層厚は55～80cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。ローム粒子を多量、礫を少量含み、層厚は25～52cmである。

第7層は、暗褐色を呈するハードローム層である。ローム粒子を多量、礫を中量含んでいる。層厚は下層が未掘のため不明である。

遺構は第2・3層上層で確認した。



第5図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で、土坑 61 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。なお、石器の一部（磨石・凹石）については、観察表のみを記載した。

第 142 号土坑（第 6 図）

位置 調査区中央部 D 2 区、標高 74.4 m の緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第 191 号土坑を掘り込み、第 192 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 0.56 m の円形である。深さは 34cm で、底面はほぼ平坦である。壁は直立し、東壁の上部のみ外傾して立ち上がっている。

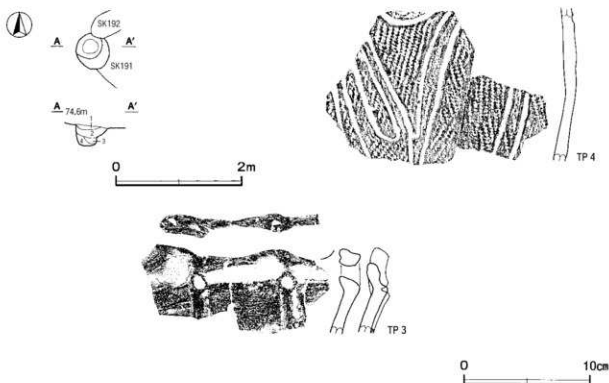
覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 37 点（深鉢）、石器 1 点（凹石）が出土している。TP3・TP4・Q1 は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第 6 図 第 142 号土坑・出土遺物実測図

第142号土坑出土遺物観察表(第6図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP3	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	外・内面磨き	覆土中	PL13
TP4	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	縄文LR・沈線文 内面磨き	覆土中	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	凹石	21.2	17.8	10.3	3.780	砂岩	凹痕表1か所	覆土中	計測のみ

第143号土坑(第7図)

位置 調査区南東部のE2c0区、標高71.8mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

規模と形状 長径1.28m、短径1.16mの楕円形で、長径方向はN-15°-Wである。深さは68cmで、底面はほぼ平坦である。壁は内彎して立ち上がりくびれ部から緩く外傾している。

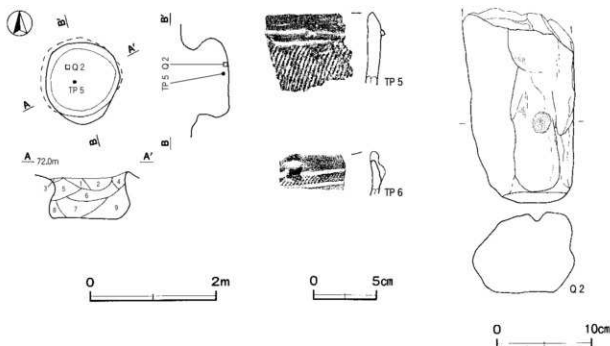
覆土 9層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|------------------------|---|-----|------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 5 | 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・白色 | 6 | 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| | | 粘土・ブロック微量 | 7 | 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 | 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 4 | 黒色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 | 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)、石器1点(凹石)が出土している。Q2は北西部、TP5は中央部の覆土下層から、TP6は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。



第7図 第143号土坑・出土遺物実測図

第143号土坑出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	縄文LR 内面磨き	覆土下層	PL14
TP6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	縄文LR 無文部磨き 内面磨き	覆土中	PL14

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	凹石	(20.5)	11.8	8.5	3.020	砂岩	凹痕表1小所	覆土下層	

第146号土坑（第8図）

位置 調査区南部のE2b0区、標高71.6mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 上部を第10・12号溝に、西部を第13号溝に、さらに北部を第186号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北径1m、東西径0.9mを確認した。長径方向はN-34°-Wである。深さは28cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

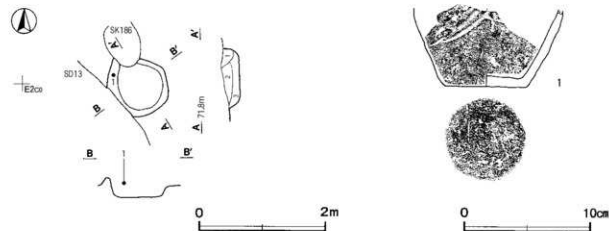
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 陶 色 ロームブロック少量 3 灰黄褐色 ロームブロック中量
 2 陶 色 ロームブロック中量、細粒微量

遺物出土状況 縄文土器片6点（深鉢）が出土している。1は、北西壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。



第8図 第146号土坑・出土遺物実測図

第146号土坑出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	6.4	長石・石英・雲母・赤鉄粉	橙	普通	沈澱による文様 底部磨き 内面ナデ	覆土上層	10%

第147号土坑（第9・10図）

位置 調査区中央部D2i0区、標高73.2mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第148号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径0.92mの円形である。深さは64cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

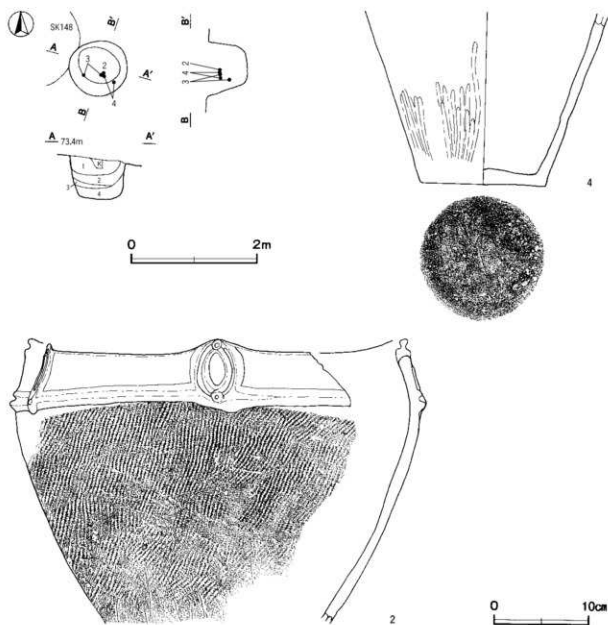
覆土 4層に分層できる。第1・2層から大形の土器片が廃棄された状態で出土していることから埋め戻されている。

土層解説

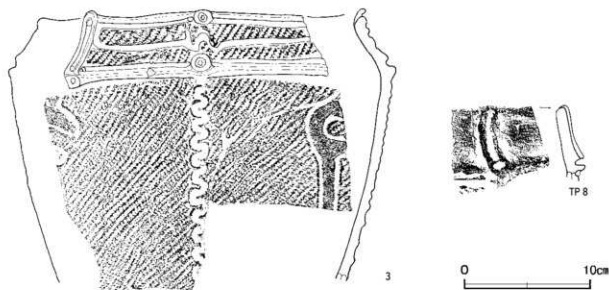
- | | | | |
|-------|--------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黄褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片23点（深鉢）混入による土師器片3点が出土している。3は中央部の覆土上層と覆土中層から出土した破片が接合したものである。2は横位で、4は逆位で中央部の覆土上層から出土している。TP8・Q3は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 円筒形土坑である。時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。



第9図 第147号土坑・出土遺物実測図



第10図 第147号土坑出土遺物実測図

第147号土坑出土遺物観察表(第9・10図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	縄文土器	深鉢	[39.6]	(30.0)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	橙	普通	口縁部に刺突を伴う貼付紋 体部縄文LR	覆土上層	45% PL10
3	縄文土器	深鉢	[25.6]	(21.6)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	明黄陶	普通	口縁部に刺突を伴うノの字文貼付付け 地文縄文LR→丸刷による入部文 体部縄文LR→すり消し伴う縦行沈線	覆土 上→中層	20% PL10
4	縄文土器	深鉢	-	(18.4)	13.2	長石・石英・雲母 赤色粒子	暗赤陶	普通	体部外→内面磨き	覆土上層	40% PL10

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母赤色粒子	明赤陶	口縁部に隆帯貼付付けによる「ノ」の字状貼付文	外内面磨き	覆土中	PL14

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	割片	(5.0)	2.0	1.5	(16.1)	水晶	先端部欠損	覆土中	計測のみ

第148号土坑(第11図)

位置 調査区中央部のD20区、標高73.4mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第141・147・160号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径が1.46m、短径は1.36mの円形である。深さは64cmで底面は平坦である。壁は北部、西部では底面から内彎し、くびれ部から直立して立ち上がるが、東部から南部にかけての壁は外傾している。

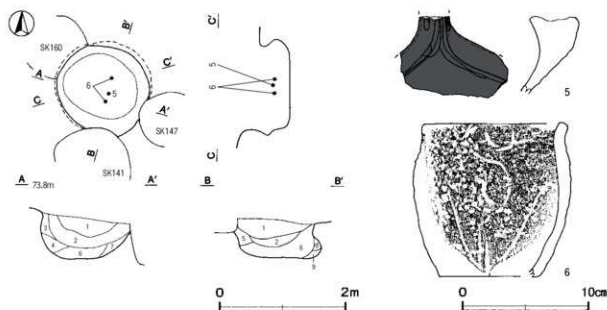
覆土 9層に分層できる。ロームのブロックが含まれていることや不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、裏沼バミス粒子微量	6	黄褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック少量	7	黒褐色	ロームブロック少量
3	黄褐色	ロームブロック微量	8	黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量	9	黒褐色	ロームブロック中量
5	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片22点(深鉢)が出土している。5・6は、中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第11図 第148号土坑・出土遺物実測図

第148号土坑出土遺物観察表(第11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	-	(62)	-	長石・石英・雲母	にびい橙	普通	波頂部に指突文 外・内面磨き	覆土中層	5% PL10
6	縄文土器	鉢	11.2	12.2	(8.0)	長石・雲母	浅黄橙	普通	施紋不明 比線によるJ字紋	覆土中層	40% PL10

第150号土坑(第12図)

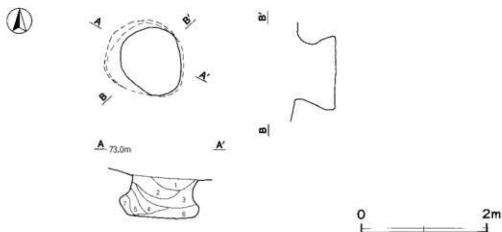
位置 調査区東部のD3j1区、標高725mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.12m、短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-30°-Wである。深さは62cmで、底面はほぼ平坦である。壁は底面から内彎して、くびれ部からほぼ直立している。

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|--------------------------|---|-----|------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量、赤色バミス粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・白色バミス粒子微量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量、白色バミス粒子微量 | 6 | 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| | | | 7 | 褐色 | ロームブロック中量 |



第12図 第150号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。

第151号土坑(第13図)

位置 調査区北東部のD311区、標高729mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

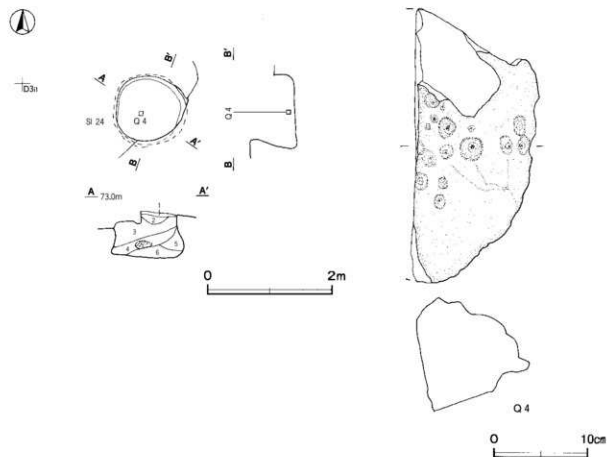
重複関係 北東部から南西部にかけて、第24号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南西部を第24号住居に掘り込まれているため、南北径1m、東西径は0.94mしか確認できなかった。平面形は円形と推測できる。深さは66cmで、壁は底面から内増し、くびれ部から直立している。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	5 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化・黒色粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量



第13図 第151号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)、石器1点(凹石)、混入による土師器片3点(甕)が出土している。縄文土器片は細片の為、図示できない。Q4は、中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は第143号土坑や第152号土坑と規模や形状が類似していることや、出土土器から後期前葉と考えられる。

第151号土坑出土遺物観察表（第13図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	凹石	29.2	13.2	12.2	(490)	砂岩	凹痕長16小指	覆土下層	PL16

第152号土坑（第14図）

位置 調査区北東部のD311区、標高72.7mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

規模と形状 長径1.14m、短径1.10mの円形である。深さは62cmで、底面はほぼ平坦である。壁は底面から内増している。

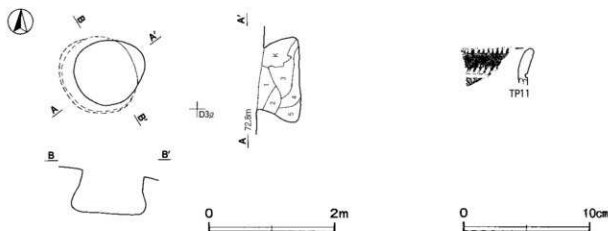
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、赤色バミス粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器断片8点（深鉢）が出土している。TP11は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。



第14図 第152号土坑・出土遺物実測図

第152号土坑出土遺物観察表（第14図）

番号	検別	器種	胎土	色調	手法の特徴	備考	出土位置	備考
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英	暗赤褐	口唇部に沈線→縄文肌、口縁部に刻み、内面磨き		覆土中	PL14

第154号土坑（第15図）

位置 調査区南部のE2c9区、標高72.0mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は、南北径が1.30m、東西径は東部が第11号溝に掘り込まれているため1.13mしか確認できなかった。平面形は円形と推測できる。深さは57cmで、底面はほぼ平坦である。壁は底面から内増し、く

びれ部から直立している。

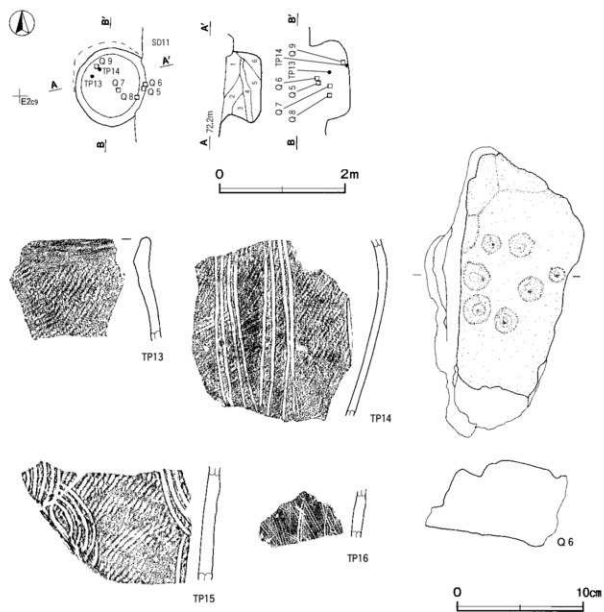
覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 炭化物中量、ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 67点（深鉢）、石器5点（凹石）が出土している。TP14は北西部の底面から、TP13は西部の覆土中層から出土している。また、Q9は北西部の覆土下層から、Q7は中央部の覆土中層から、Q8は東部の覆土中層から、Q5・Q6は東部壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。TP15・TP16は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。



第15図 第154号土坑・出土遺物実測図

第154号土坑出土遺物観察表(第15図)

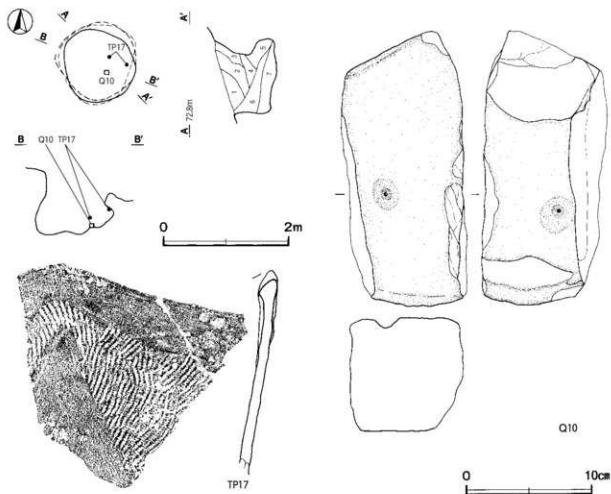
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	橙	0段多繩の縄文LR 内面磨き	覆土中層	PL13
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	橙	縄文LR-4本1組の沈線による懸垂文 内面磨き	底面	PL13
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	無節縄文LR 4本1組の沈線からなる渦紋	覆土中	PL13
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	蹄歯状工具による条線 内面磨き	覆土中	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	凹石	(18.4)	(11.4)	(8.8)	(1930)	砂岩	一部欠損 凹痕表11・裏2か所 被熱痕	覆土上層	計測のみ
Q6	凹石	22.9	12.6	6.9	1590	砂岩	凹痕表7か所	覆土上層	PL15
Q7	凹石	(15.2)	11.0	6.7	(770)	砂岩	一部欠損 凹痕表3・裏2か所 被熱痕	覆土中層	計測のみ
Q8	凹石	27.4	17.6	5.5	2130	砂岩	凹痕表14・裏8か所 被熱痕	覆土中層	計測のみ
Q9	凹石	15.3	14.0	6.3	1470	砂岩	凹痕表1か所 被熱痕	覆土下層	計測のみ

第156号土坑(第16図)

位置 調査区南西部のE2c9区、標高72.5mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

規模と形状 長径1.25m、短径1.08mの楕円形である。長径方向はN-50°-Wである。深さは80cmで、底面は凹凸がある。壁は内壁して、くびれ部から外傾して立ち上がっている。



第16図 第156号土坑・出土遺物実測図

覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれており、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量	5	黒色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	黒色	ロームブロック・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	7	黒色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片7点（深鉢）、石器1点（凹石）が出土している。TP17は、東部壁付近の覆土中層と中央部の覆土中層から出土した破片を接合したものである。Q10は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第156号土坑出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP17	縄文土器	深鉢	灰石・石灰・雲母・赤色粒子	明褐色	縄文LR-微隆帯磨き 内面磨き	覆土中層	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	凹石	21.8	(10.0)	8.9	2.613	砂岩	凹面表、裏各1カ所	底面	PL15

第157号土坑（第17図）

位置 調査区南部のE3c1区、標高71.6mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

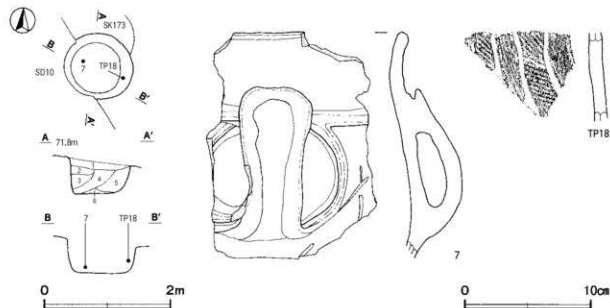
重複関係 第173号土坑を掘り込み、第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.10m、短径1.02mの円形である。深さは50cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は直立している。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	6	黒褐色	ロームブロック中量



第17図 第157号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 10 点（深鉢）が出土している。7 は北西部の覆土下層から、TP18 は東壁際の覆土中層から出土している。

所見 円筒形土坑である。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第 157 号土坑出土遺物観察表（第 17 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
7	縄文土器	深鉢	-	(17.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	楕状把手、内面磨き		覆土下層	10% PL10

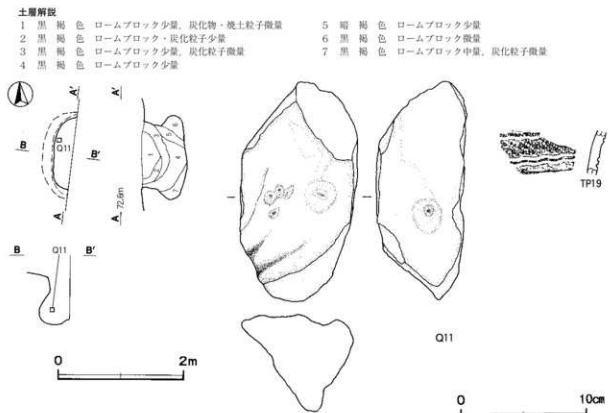
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴	はか	出土位置	備考	
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	沈殿間に縄文LR光積	無文部磨き	内面磨き	覆土中層	PL12

第 158 号土坑（第 18 図）

位置 調査区東部の E 3al 区、標高 723 m の緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

規模と形状 東半部は調査区域外へ延びており、開口部は南北径 1.08 m、東西径 0.38 m しか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推測できる。深さは 76cm で、底面はほぼ平坦である。壁は底面から大きく内増し、くびれ部からはほぼ直立している。

覆土 7 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。



第 18 図 第 158 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 10 点（深鉢）、石器 2 点（四石）が出土している。Q11 は覆土下層から出土している。TP19 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。

第158号土坑出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	黄褐色	縄文RL→半載竹管による流状文	覆土中	PL14

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	凹石	17.7	9.4	7.7	1.140	砂岩	凹面表5か所 裏1か所	覆土下層	PL15

第160号土坑（第19図）

位置 調査区中央部のD210区、標高736mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第148号土坑を掘り込み、第161・168号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部を第161・168号土坑に掘り込まれているので、南北径は1.10m、東西径は1.0mしか確認できなかった。平面形は横円形で、長径方向はN-48°-Wと推測できる。深さは34cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

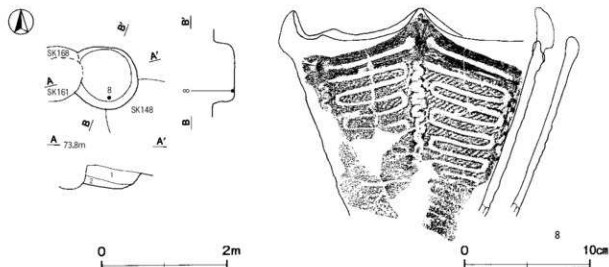
土層解説

1 層 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 層 褐色 ロームブロック少量、炭化材微量

遺物出土状況 縄文土器片33点（深鉢）が出土している。8は、南部の底面から横位で出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第19図 第160号土坑・出土遺物実測図

第160号土坑出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
8	縄文土器	深鉢	19.5	(16.7)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部の両面に刺突を伴う流状文 縄文SL8-9層位の航行流状文	底面	40% PL9

第162号土坑（第20図）

位置 調査区北東部D210区、標高734mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第163号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第163号土坑に掘り込まれているので、南北径0.96m、東西径0.60mしか確認できなかった。

た。平面形は楕円形と推測できる。深さは68cmで、底面はほぼ平坦である。西部の壁は、内彎して立ち上がっている。

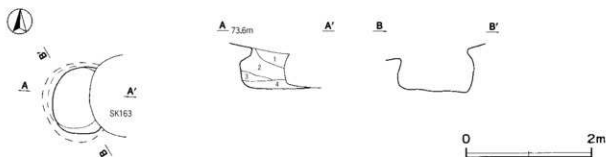
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片13点（深鉢）が出土している。細片のため、図示できない。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。



第20図 第162号土坑実測図

第164号土坑（第21・22図）

位置 調査区中央部のD2j0区。標高73.1mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

規模と形状 開口部は長径が1.14m、短径は1.03mで、平面形は長径方向がN-20°-Wの楕円形である。

深さは81cmで、底面はほぼ平坦である。壁は底面から内彎して立ち上がっている。

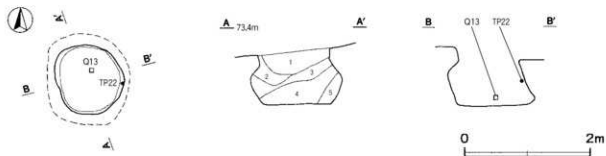
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

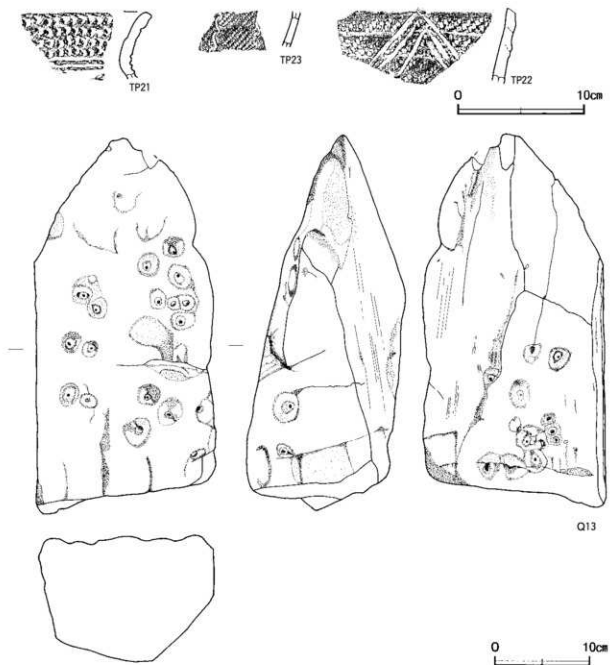
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・白色バミス粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・白色バミス粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・白色バミス粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、白色バミス粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、白色バミス粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片14点（深鉢）、石器2点（剥片、凹石）が出土している。TP22は東部壁付近の覆土中層から出土している。Q13は覆土下層から出土している。TP21・TP23・Q12は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と比定できる。廃棄されたと思われるTP21と同一固体片が第170号土坑から出土していることから、両者は同時期に開口していたと考えられる。



第21図 第164号土坑実測図



第22図 第164号土坑出土遺物実測図

第164号土坑出土遺物観察表(第22図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	縄文LR→平載竹管による乱彩文 内面磨き	TP28と同一個体	覆土中 PL14
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	外面に輪積み痕 縄文LR→沈線文		覆土中層 PL14
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	縄文LR 結節縄文		覆土中

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q12	剥片	4.1	24	1.1	9.9	瑪瑙	刃辺剥離痕	覆土中	計測のみ
Q13	凹石	(306)	192	132	(1700)	砂岩	凹面表18・裏12か所・横2か所 先端部欠損	覆土下層	PL16

第165号土坑（第23～27図）

位置 調査区中央部のD2j0区、標高73.2mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第10・12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第10・12号溝に掘り込まれているが、長径20m、短径1.86mを確認できた。平面形は円形である。深さは76cmで、底面はほぼ平坦である。壁は底面から内彎して立ち上がっている。

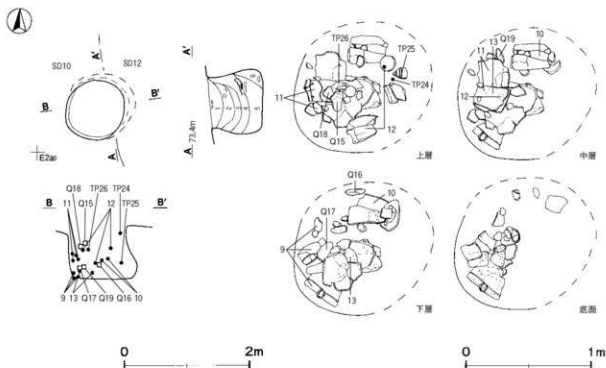
覆土 6層に分層できる。2層から6層にかけて大形の土器片が廃棄された状態で多く出土していることや、西側から投げ込まれた堆積状況などから、廃棄に伴い埋め戻されているとみられる。

土層解説

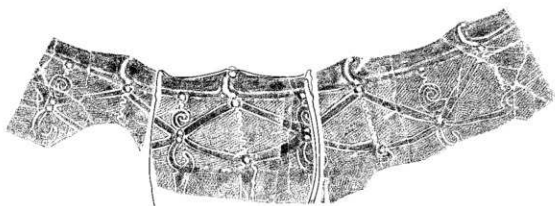
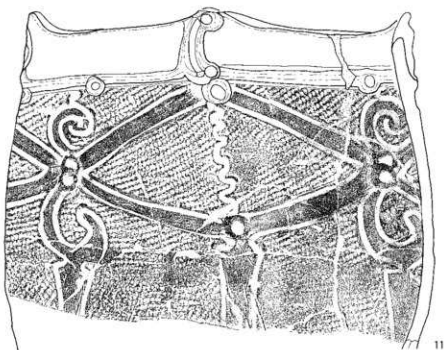
- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・白色バミス粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・白色バミス粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化材・焼土粒子・白色バミス粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・白色バミス粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片108点（深鉢）、石器6点（磨石2点、凹石4点）が出土している。9は西部の壁付近の覆土下層から横位で出土した破片が接合したものである。13は中央部の覆土下層から出土している。10は覆土中層から覆土下層にかけて横位で出土した破片が接合したものである。11は西部壁際の覆土中層から、12は中央部の覆土中層から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。TP25は東部壁際の覆土中層から、TP26は中央部の覆土中層からTP24は東部壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。Q16・Q17・Q19は覆土中層から、Q15・Q18は覆土上層から、Q14は覆土中から出土している。

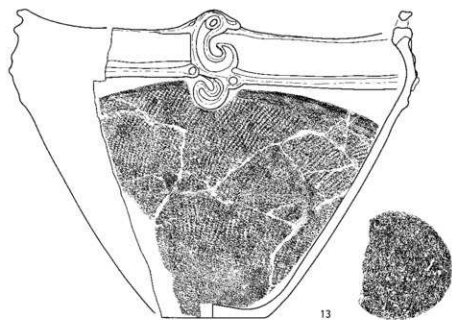
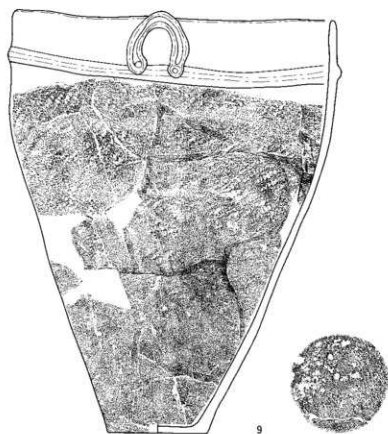
所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



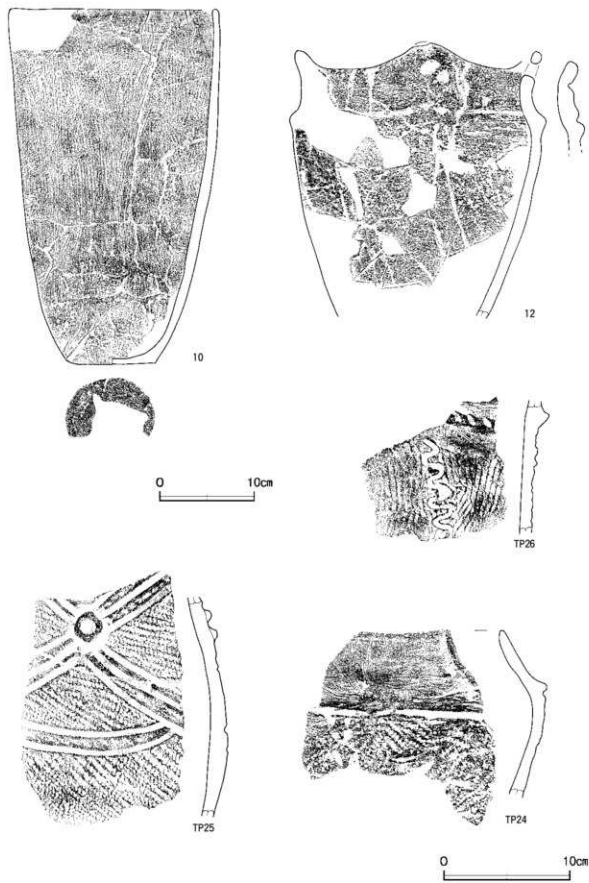
第23図 第165号土坑実測図



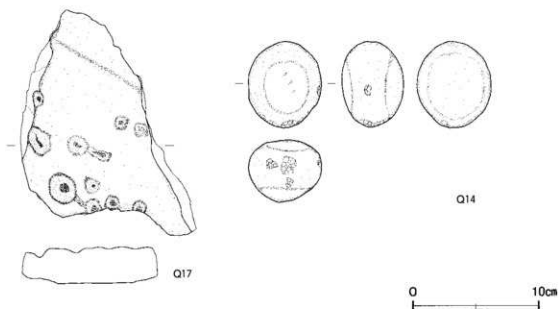
第24图 第165号土坑出土遗物实测图(1)



第25图 第165号土坑出土遗物实测图(2)



第 26 图 第 165 号土坑出土文物实测图 (3)



第27図 第165号土坑出土遺物実測図(4)

第165号土坑出土遺物観察表(第24～27図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	縄文土器	深鉢	33.6	44.7	10.8	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	口縁部に浅帯彫り付けによるC字状彫り付け文。体部縄文LR。底部断文。	覆土下層	90% PL9
10	縄文土器	深鉢	21.5	37.5	9.0	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	蹄歯状工具による縦位の条線文。	覆土中・下層	90% PL9
11	縄文土器	深鉢	29.4	26.7	-	長石・石英・赤色砂子	明赤褐	普通	口縁部にC字状文を施す。体部縄文LR。縦位の流石・雲母。文字長直行文。刻文文。	覆土中層	50% PL9
12	縄文土器	鉢	[18.9]	[21.1]	-	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	口縁部に流石のノ字彫り付け文。胴部に縄文LR一帯並文。軸直文面を施す。	覆土中・下層	60% PL9
13	縄文土器	浅鉢	[39.9]	32.5	11.2	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部に縄文LR。口縁部に逆C字状彫り付け文。体部に字彫り付け文。	覆土下層	50% PL9

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP24	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母・赤色砂子	明赤褐	縄文LR	覆土上層	PL13
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色砂子	橙	縄文RL。3本1組の沈線による横位連雲文。内面磨き。	覆土中層	PL13
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	明赤褐	無節縄文L→沈線による蛇行文。	覆土中層	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	磨石	6.8	5.8	4.9	250	砂岩	磨痕2か所 敲痕2か所	覆土中	
Q15	凹石	[25.7]	13.7	7.2	[1630]	砂岩	凹痕表2か所	覆土上層	計測のみ
Q16	棒状凹石	(19.9)	4.5	5.0	(460)	砂岩	凹痕表1か所	覆土中層	計測のみ
Q17	凹石	17.8	14.0	2.9	600	砂岩	凹痕表12か所	覆土中層	PL15
Q18	凹石	13.8	11.0	3.1	656	砂岩	凹痕表1か所	覆土上層	計測のみ
Q19	磨石	16.5	6.5	4.7	660	流紋岩	磨痕2か所 敲痕1か所	覆土中層	計測のみ

第170号土坑(第28図)

位置 調査区東部のD311区、標高728mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

規模と形状 開口部は径0.68mの円形である。深さは78cmで、底面はほぼ平坦である。壁は、底面から内側に立ち上がっている。

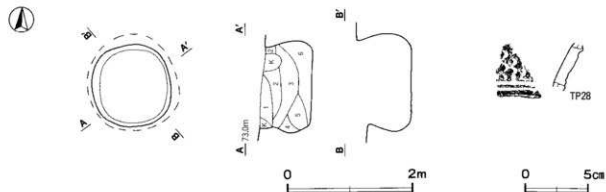
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子少量、炭化物粒子微量 | 4 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・炭屑 | 5 黒 褐色 | ロームブロック・炭化粒子・白色パミス粒子微量
パミス粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 6 黒 褐色 | ロームブロック・炭化粒子・炭屑パミス粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢) が出土している。TP28 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。廃棄されたと思われる TP28 と同一個体片が第 164 号土坑から出土していることから、両者は同時期に開口していたと考えられる。



第 28 図 第 170 号土坑・出土遺物実測図

第 170 号土坑出土遺物観察表 (第 28 図)

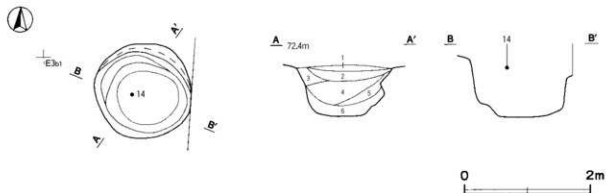
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	縄文RL→平載竹管による爪形文 内面磨き	覆土中	

第 172 号土坑 (第 29・30 図)

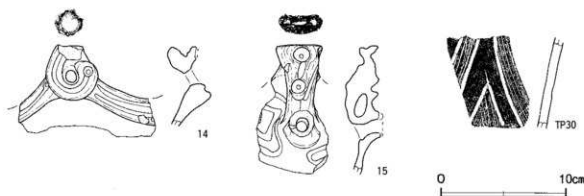
位置 調査区東部の E 3 b1 区、標高 72.2 m の緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

規模と形状 径 1.52 m の円形である。深さは 92cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。



第 29 図 第 172 号土坑実測図



第30図 第172号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|----------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化材・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 6 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片28点(深鉢)が出土している。14は中央部の覆土上層から、15・TP30はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。

第172号土坑出土遺物観察表(第30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	表面部にC字状の粘付文 口縁部に沈線文	覆土上層	5% PL10
15	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母	におい橙	普通	橋状把手に両端に孔を持つノの字跡等 先端にも両孔のノの字文	覆土中	5% PL10

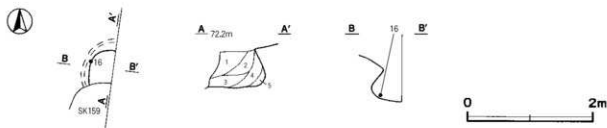
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	におい褐	沈線間に櫛歯状工具による条線文を充填 内面磨き	覆土中	PL12

第175号土坑(第31・32図)

位置 調査区南東部のE3b1区、標高72.0mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第159号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東半部が調査区域外へ延びており、南部が第159号土坑に掘り込まれているため、開口部は南北径0.52m、東西径0.34mしか確認できなかった。平面形は円形もしくは楕円形と推測される。深さは56cmで、底面はほぼ平坦である。壁は底面から大きく内彎している。



第31図 第175号土坑実測図

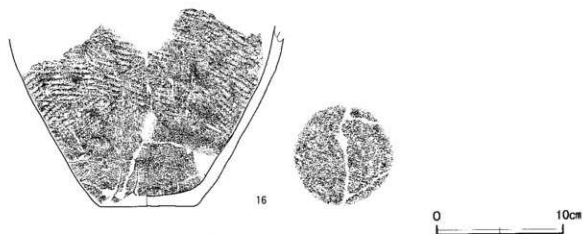
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含むことから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片4点(鉢)が出土している。16は西部壁際の底面から出土している。

所見 時期は、重複関係や遺構の形状から後期前葉と考えられる。



第32図 第175号土坑出土遺物実測図

第175号土坑出土遺物観察表(第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	縄文土器	深鉢	-	(14.2)	7.5	長石・石英・針状炭物	橙	普通	体部外面織文LR	底面	10%

第184号土坑(第33・34図)

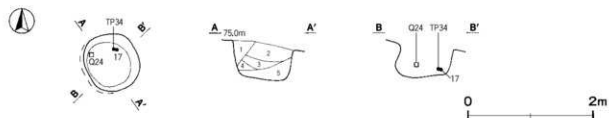
位置 調査区北部のD2g8区、標高74.9mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

規模と形状 長径0.74m、短径0.66mの楕円形で、長径方向はN-34°-Wである。深さは44cmで、底面は平坦である。壁は南西部が内彎し、北西部は直立している。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

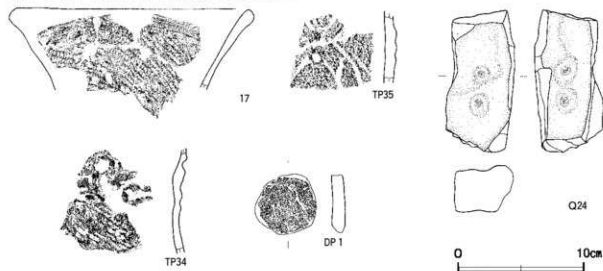
- | | | | |
|------|---------------------------|-------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| | | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |



第33図 第184号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 50 点（深鉢）、石器 2 点（凹石）が出土している。17・TP34 は北部の覆土下層から出土している。Q24 は中央部の覆土中層から出土している。TP35・DP1・Q25 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。



第 34 図 第 184 号土坑出土遺物実測図

第 184 号土坑出土遺物観察表（第 34 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	縄文土器	深鉢	[18.4]	(6.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部無文 体部縄文LR	覆土下層	5%
番号	種別	器種			胎土	色調	手法の特徴ほか		出土位置	備考	
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子		にふい隔	外・内面準減により調整不明瞭			覆土下層	PL14	
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子		橙	外・内面準減により調整不明瞭	すり消し縄文による縦垂文*		覆土中	PL14	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
DP1	土器片凹石	4.7	4.9	1.1	30	長石・石英・雲母	周辺部研磨		覆土中	PL12	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q24	凹石	11.2	(5.4)	3.7	(350)	砂岩	凹面表 2・裏 2 か所		覆土中層		
Q25	凹石	(21.5)	10.7	4.8	L700	頁岩	凹面表 1 か所		覆土中	計測のみ	

第 188 号土坑（第 35 図）

位置 調査区北部の D 2 h9 区、標高 74.4 m の緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第 191 号土坑を掘り込み、第 189・193 号土坑、第 12 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 1.50 m であるが、東部が第 12 号溝に掘り込まれているため、東西径は 1.42 m ししか確認できなかった。平面形は円形と推測できる。深さは 66cm で、底面は平坦である。壁は北部から西部にかけて内傾し、東部はほぼ直立している。

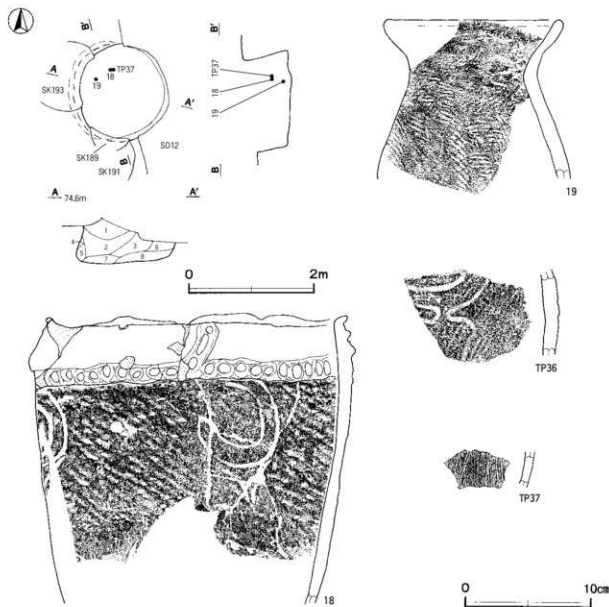
覆土 8 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 124 点（深鉢）が出土している。19 は中央部の覆土下層から出土している。18 は中央部、TP37 は北部の覆土中層から出土している。TP36 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。



第 35 図 第 188 号土坑・出土遺物実測図

第 188 号土坑出土遺物観察表（第 35 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	縄文土器	深鉢	240	(230)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	無胎し・オマリ滑し作り・宇文・口縁部に割突を伴う口縁部下縁微重押注	覆土中層	45% PL10
19	縄文土器	深鉢	[140]	(127)	-	長石・石英・雲母・炭化粒子	橙	普通	無胎縄文L 内面ナデ 逆形	覆土下層	5% PL10

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP96	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	摩滅著しい 縄文LR→沈線	覆土中	PL14
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	縄曲伏工具による条線文	覆土中層	PL12

第190号土坑（第36図）

位置 調査区中央部D29区、標高73.5mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第12号溝に掘り込まれており、長径は1.27m、短径は1.20mしか確認できなかった。平面形は円形と推測できる。深さは34cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

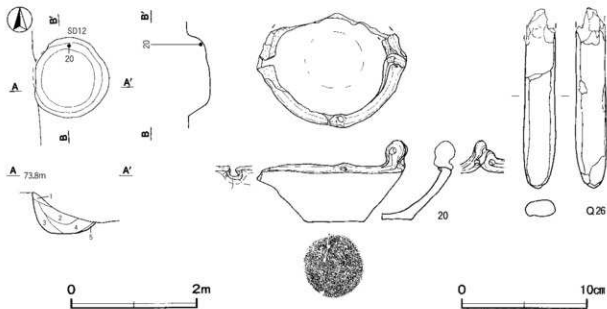
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片12点（深鉢）が出土している。20は北部の覆土下層から、Q26は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。



第36図 第190号土坑・出土遺物実測図

第190号土坑出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調/焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
20	縄文土器	大口深鉢	108	6.4	4.8	長石・石英・雲母	橙	常通 外口縁部 と内口縁部	外口縁部：8字状突起	覆土下層	60% PL10
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q26	石剣	(14.3)	2.6	1.3	(80.6)	頁岩	研磨痕		覆土中	PL16	

第191号土坑（第37図）

位置 調査区北部のD2h9区、標高74.4mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第142・188・189・192号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複が激しいため、確認できた南北径は0.7m、東西径は1.4mである。平面形は楕円形と推測できる。深さは14cmで、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

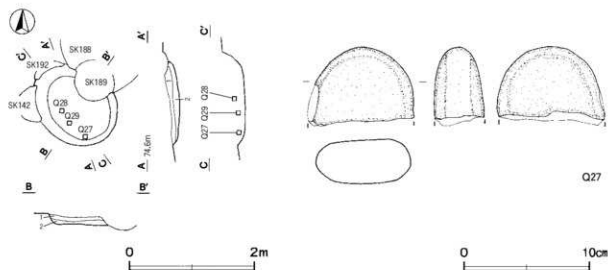
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 濃い黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点、石器3点（磨製石斧、磨石、凹石）が出土している。縄文土器片は微細のため図示できない。Q27は南部、Q28・Q29は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。



第37図 第191号土坑・出土遺物実測図

第191号土坑出土遺物観察表（第37図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q27	磨石	(6.3)	8.5	4.1	(290)	凝灰岩	磨面2か所	覆土中層	PL15
Q28	磨製石斧	(16.6)	(7.2)	(3.7)	(460)	緑色片岩	定角式 一部のみ残存 全面研磨	覆土中層	計測のみ
Q29	凹石	(18.3)	10.5	5.3	(840)	砂岩	凹面表4か所	覆土中層	計測のみ

第192号土坑（第38図）

位置 調査区北部のD2h9区、標高74.4mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第142・191号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.58m、短径0.36mの楕円形で、長径方向はN-67°-Eである。深さは12cmで、底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに傾斜している。

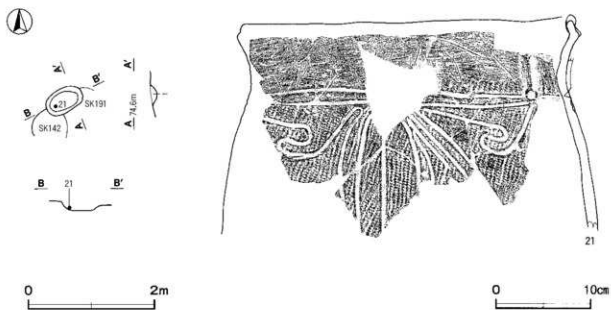
覆土 単一層である。ロームブロックや大きな土器片が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片8点（深鉢）が出土している。21は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。



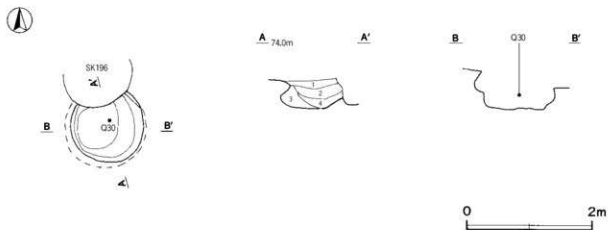
第38図 第192号土坑・出土遺物実測図

第192号土坑出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	縄文土器	深鉢	[34.6]	[22.7]	-	長石・石英・雲母・小礫・赤色粒子	明黄褐色	普通	縄文ⅡB 1層部に棒状の跡が見付く。注層による縦糸文。J字状の縦位置。結文。内面磨き。	覆土下層	15%

第195号土坑（第39図）

位置 調査区北部のD2h0区、標高73.6mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。



第39図 第195号土坑実測図

重複関係 第196号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第196号土坑に掘り込まれているため、東西径は1.15m、南北径は0.88mしか確認できなかった。平面形は、楕円形と推測できる。深さは48cmで、底面は凹凸があり、壁は内彎して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)、石器1点(凹石)が出土している。土器片は細片のため図示できない。Q30は、中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。

第195号土坑出土遺物観察表(第39図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	凹石	31.6	9.9	8.0	2.540	砂岩	凹面表1か所	覆土中層	計画のみ

第196号土坑(第40図)

位置 調査区北部のD2h0区、標高736mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第195号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.11m、短径0.92mの楕円形で、長径方向はN-17°-Eである。深さは58cmで、底面は平坦である。壁は内彎して立ち上がり、くびれ部から直立している。

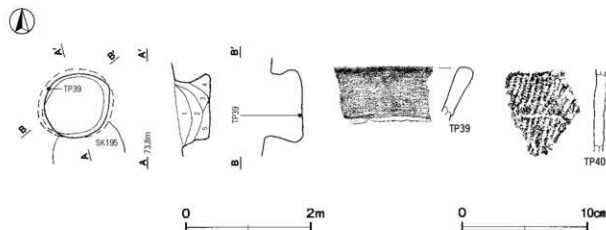
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックや粒子が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)が出土している。TP39は北西部壁際の底面から、TP40は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。



第40図 第196号土坑・出土遺物実測図

第196号土坑出土遺物観察表(第40図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・珪石・ 片石・磁石・赤色粒子	明赤褐色	撚面状工具による未織文	底面	PL12
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にがい黄褐色	外面縄文LR→外・内面磨き	覆土中	PL14

第214号土坑(第41図)

位置 調査区中央部のD3h1区、標高72.8mの緩やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第24号住居に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第24号住居跡に掘り込まれているが、南北径は1.12m、東西径は1.04mを確認した。平面形は円形と推測できる。深さは46cmで、底面は平坦である。壁は内彎して立ち上がり、くびれ部から直立している。

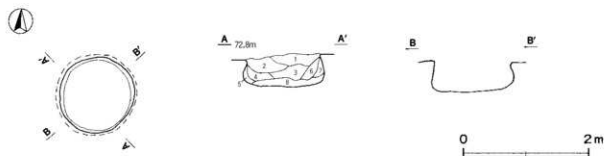
覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 6 にがい黄褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック・焼土粒子多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 8 にがい赤褐色 | ロームブロック多量 |

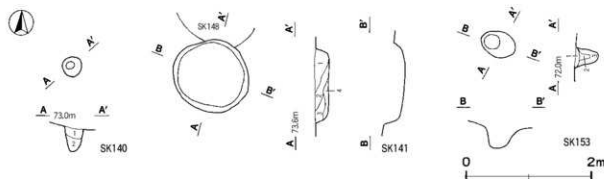
遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。土器片は細片のため、図示できない。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考える。

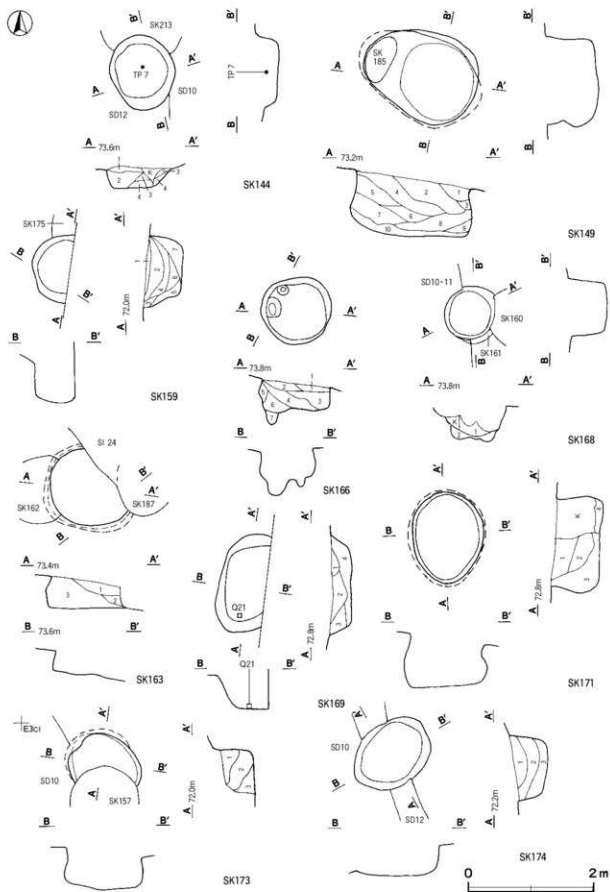


第41図 第214号土坑実測図

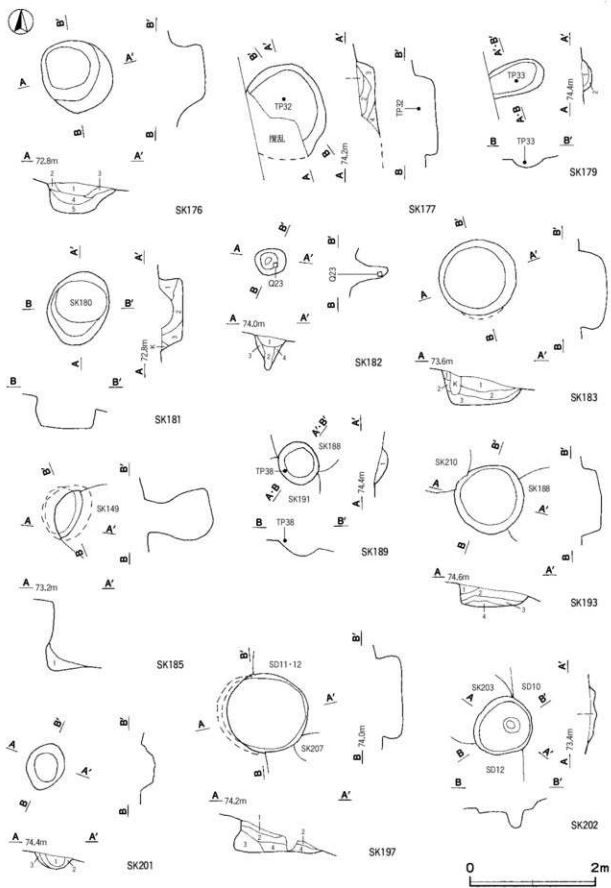
その他の土坑(第42～47図)



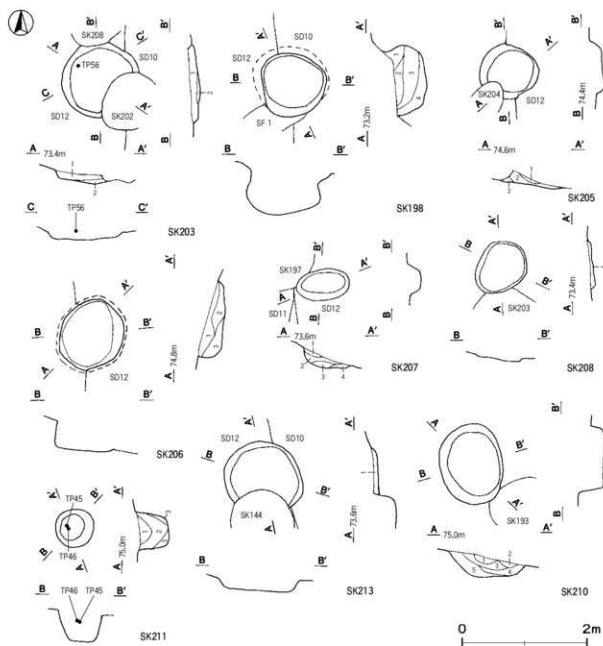
第42図 その他の土坑実測図(1)



第43図 その他の土坑実測図(2)



第44図 その他の土坑実測図(3)



第 45 図 その他の土坑実測図 (4)

第 140 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 鹿沼バミス粒子微量

第 141 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

第 144 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミス粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 149 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 白色スコリア粒子微量
- 6 淡褐色褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック中量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子極微量
- 10 褐色 ロームブロック中量

第153号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量

第159号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子、白色粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック微量、炭化粒子極微量
- 6 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 7 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子極微量

第163号土壌層解説

- 1 暗 褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第166号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 6 に近い黄褐色 ローム粒子少量
- 7 暗 褐色 ロームブロック多量

第168号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック、鹿沼バミス粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第169号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第171号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量

第173号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第174号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量

第176号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子、炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第177号土壌層解説

- 1 黒 褐色 炭化物、ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子、白色粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量

第179号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子、炭化粒子微量

第181号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量
- 2 暗 褐色 鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

第182号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量

第183号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック、炭化物、焼土粒子微量
- 3 に近い黄褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子微量

第185号土壌層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック、ローム粒子、炭化粒子微量

第189号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子、炭化粒子微量

第193号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子、炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 炭化物中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 炭化物、ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 4 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

第197号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物、焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量

第198号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子極めて微量

第201号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 に近い黄褐色 ロームブロック多量
- 3 灰黄褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量

第202号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック、炭化粒子微量

第203号土壌層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第205号土壌層解説

- 1 暗 褐色 炭化物、焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量

第206号土壌層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量

第 207 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 に近い黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック微量

第 208 号土坑土層解説

- 1 ロームブロック少量

第 210 号土坑土層解説

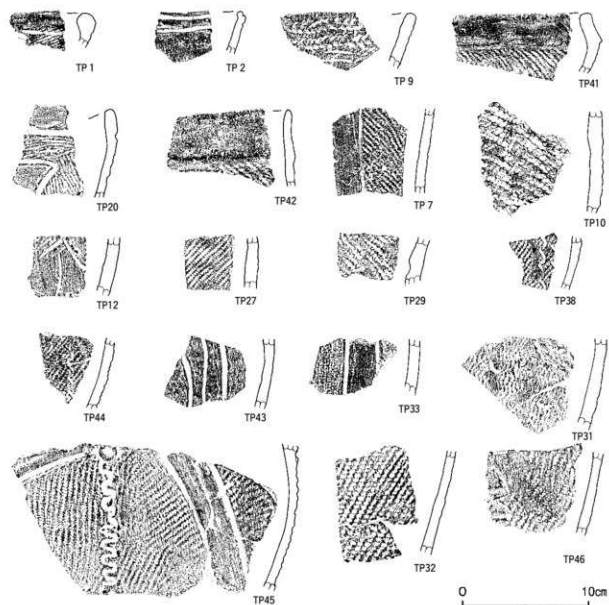
- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 に近い黄褐色 ロームブロック中量
- 4 褐 色 ロームブロック中量、鹿沼バミス小ブロック微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量、黒色粒子微量

第 211 号土坑土層解説

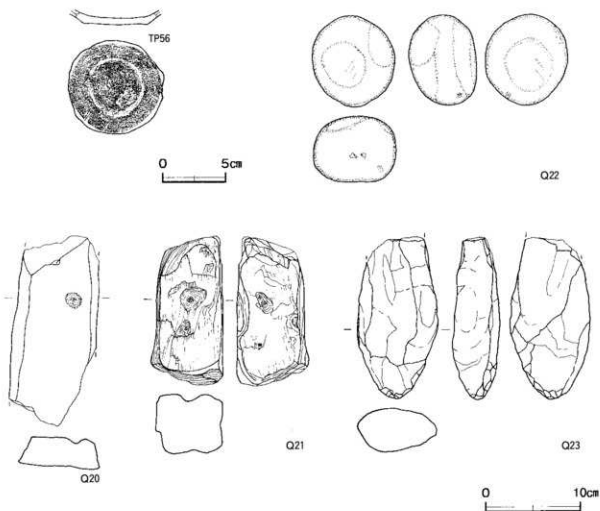
- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第 213 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第 46 図 その他の土坑出土遺物実測図 (1)



第 47 図 その他の土坑出土遺物実測図 (2)

第 140 号土坑出土遺物観察表 (第 46 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	縄文LR→丸埴	覆土中	

第 141 号土坑出土遺物観察表 (第 46 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP2	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ 内面磨き	覆土中	PL13

第 144 号土坑出土遺物観察表 (第 43・46 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	縄文LR丸埴	覆土中層	PL14

第149号土坑出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英・灰緑物・雲母	明褐色	口縁部に変形爪形文 内面磨き	覆土中	PL14
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	縄文LR 内面ナデ	覆土中	PL14

第153号土坑出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	外・内面ナデ	覆土中	

第159号土坑出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	沈線間に無節縄文LR 内面磨き	覆土中	PL13

第166号土坑出土遺物観察表(第46・47図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黄橙	縄文LR 内面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	凹石	(194)	9.3	3.5	(730)	緑色片岩	凹痕表1ヶ所	覆土中	PL15

第169号土坑出土遺物観察表(第43・47図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	凹石	15.5	7.5	6.2	1,330	黒雲母片岩	凹痕表2・裏1ヶ所	覆土下層	PL15

第171号土坑出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	縄文LR	覆土中	

第174号土坑出土遺物観察表(第46・47図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐色	鉤歯状工具による条縄文	覆土中	PL14

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q22	凹石	9.5	8.6	6.9	780	凹緑岩	凹痕2面 凹痕1ヶ所	覆土中	PL15

第177号土坑出土遺物観察表(第44・46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐色	縄文RL 内面磨き	覆土上層	PL14

第179号土坑出土遺物観察表(第44・46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・片麻岩・赤色粒子	明赤褐色	沈線間に縄文RL光塩	覆土中層	PL14

第182号土坑出土遺物観察表(第44・47図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q23	布敷6等*	(16.9)	5.1	8.4	730	砂質片岩	片面調整	覆土中層	PL16

第189号土坑出土遺物観察表(第44・46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	縄文RL 結節縄文あり	覆土上層	PL14

第197号土坑出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP41	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明褐	摩滅著しい 縄文RL	覆土中	PL13
TP42	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明褐	縄文RL	覆土中	PL13

第198号土坑出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	施文後、3本の沈線文の間を磨り消し	覆土中	PL14

第201号土坑出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	縄文RL 結節縄文あり	覆土中	PL14

第203号土坑出土遺物観察表(第45・47図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP56	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	外面磨き	覆土上層	

第211号土坑出土遺物観察表(第45・46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	縄文LR→階段起帯の間に沈線文・蛇行線文による彫垂文	覆土上層	PL13
TP46	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	縄文LR→沈線文の周囲を一部磨り消し	覆土上層	PL13

表2 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(m)					
140	D3 1	-	円形	1.28×1.28	.36	人為	ほぼ平坦	外傾	縄文土器	
141	D2 0	N-67°-W	楕円形	1.28×1.16	.22	人為	平坦	外傾・緩斜	縄文土器	SK 148→本跡
142	D2 8	-	円形	0.56×0.56	.34	人為	平坦	直立	縄文土器、凹石	SK 191→本跡-SK 192
143	E2 0	N-15°-W	楕円形	1.28×1.16	.68	人為	平坦	内傾・外傾	縄文土器、凹石	
144	D2 9	N-9°-W	楕円形	1.20×1.02	.24	人為	平坦	緩斜	縄文土器	SK 213→本跡→SD 10-12
146	E2 6	N-34°-W	[楕円形]	(1.0)×(0.9)	.28	人為	平坦	外傾	縄文土器	本跡-SK 186→SD 12-13
147	D2 0	-	円形	0.92×0.90	.64	人為	平坦	外傾	縄文土器	SK 148→本跡
148	D2 0	-	[円形]	1.46×1.36	.64	人為	平坦	内傾・直立	縄文土器	SK 141-147→本跡-SK 160
149	D3 1	N-59°-W	楕円形	1.86×1.44	.76	人為	平坦	内傾・直立	縄文土器	SK 185→本跡
150	D3 1	N-30°-W	楕円形	1.12×0.96	.62	人為	平坦	内傾・直立	縄文土器	
151	D3 1	-	[円形]	1.00×(0.94)	.66	人為	平坦	内傾・直立	縄文土器	本跡→SI 24

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主要出土遺物	備 考 新旧関係(古-新)
				長径×短径(m)	高さ(cm)					
152	D3i1	-	円形	1.14×1.10	62	人丸	平坦	内壁・直立	縄文土器	
153	E2a0	N-70°-W	楕円形	0.58×0.42	32	人丸	皿状	外傾・緩斜	縄文土器	
154	E2a9	-	楕円形	1.3×(1.13)	57	人丸	平坦	内壁・直立	縄文土器、凹石	本跡→SD 11
156	E2a9	N-50°-W	楕円形	1.25×1.08	80	人丸	凸凹	内壁	縄文土器、凹石	
157	E3c1	-	円形	1.10×1.02	50	人丸	平坦	直立	縄文土器	SK 173→本跡→SD 10
158	E3a1	-	楕円形	1.08×(0.38)	76	人丸	平坦	内壁・直立	縄文土器、凹石	
159	E3b1	N-7°-E	楕円形	1.10×(0.60)	59	人丸	平坦	直立	縄文土器	SK 175→本跡
160	D2i0	N-48°-W	楕円形	1.10×1.00	34	人丸	平坦	外傾	縄文土器	SK 148→本跡→SK 161-168
162	D2i0	-	楕円形	0.96×(0.60)	68	人丸	平坦	内壁	縄文土器	SK 163→本跡
163	D2i0	N-34°-W	楕円形	1.34×(0.96)	46	人丸	平坦	内壁	縄文土器	SK 162→本跡→SI 24→SK 187
164	D2j0	N-20°-W	楕円形	1.14×1.03	81	人丸	平坦	内壁	縄文土器、凹石、凹石	
165	D2j0	-	円形	2.00×1.86	76	人丸	平坦	内壁	縄文土器、凹石、凹石	本跡→SD 10-SD 12
166	D2a0	-	円形	1.12×1.05	42	人丸	平坦・凹凸	外傾	縄文土器、凹石	
168	D2i0	-	[円形]	0.94×(0.89)	60	人丸	平坦	外傾・直立	縄文土器	SK 160→本跡→SK 161-167、SD 10-12
169	D3b1	N-22°-E	[楕円形]	(0.67)×(0.72)	52	人丸	平坦	緩斜	凹石	
170	D3i1	-	円形	0.68×0.67	78	人丸	平坦	内壁	縄文土器	
171	D3b1	-	楕円形	1.46×1.16	76	人丸	平坦	内壁・直立	縄文土器	
172	E3b1	-	円形	1.52×1.50	92	人丸	平坦	外傾	縄文土器	
173	E3c1	N-78°-W	[楕円形]	1.12×(0.50)	58	人丸	平坦	緩斜	縄文土器	本跡→SK 157
174	E3b1	N-59°-E	楕円形	1.33×1.04	48	自然	平坦	外傾	縄文土器、凹石	本跡→SD 10-12
175	E3b1	N-7°-E	西形・楕円形	(0.52)×(0.34)	56	人丸	平坦	内壁	縄文土器	本跡→SK 159
176	E2a0	N-46°-W	楕円形	1.20×1.09	50	人丸	平坦	緩斜	縄文土器	
177	D2j9	N-15°-W	楕円形	0.15×0.95	27	人丸	平坦	内壁・外傾	縄文土器	
179	D2i8	N-75°-E	楕円形	(0.88)×0.48	14	人丸	U字状	緩斜	縄文土器	
181	D3b1	N-20°-E	楕円形	1.22×0.95	42	人丸	平坦	外傾	縄文土器	
182	D2a0	-	円形	0.47×0.45	54	人丸	皿状	直立	縄文土器、石斧	
183	D2a0	-	円形	1.21×1.20	40	人丸	平坦	内壁・外傾	縄文土器	
184	D2a8	N-34°-W	楕円形	0.74×0.66	44	人丸	平坦	内壁	縄文土器、凹石	
185	D3j1	N-27°-E	楕円形	0.78×(0.38)	120	人丸	平坦	内壁	縄文土器	本跡→SK 149
188	D2a9	-	[円形]	1.50×(1.42)	66	人丸	平坦	内傾・直立	縄文土器	SK 181→本跡→SK 189-190→SD 12
189	D2a9	N-43°-W	楕円形	0.70×0.62	8	人丸	平坦	緩斜	縄文土器	SK 191→SK 188→本跡
190	D2j9	-	円形	1.27×(1.20)	34	人丸	平坦	緩斜	縄文土器、石剣	本跡→SD 12
191	D2i9	N-43°-W	[楕円形]	(1.40)×(0.70)	14	人丸	平坦	緩斜	縄文土器、磨石、石斧、凹石	本跡→SK 188→SK 189-192→SK 193
192	D2a9	N-67°-E	楕円形	0.58×0.36	12	人丸	平坦	緩斜	縄文土器	SK 191→SK 142→本跡
193	D2a8	-	円形	1.10×1.10	28	人丸	平坦	外傾	縄文土器	SK 188→本跡→SK 210
195	D2a0	-	[楕円形]	(1.15)×(0.88)	48	人丸	凸凹	内壁	縄文土器、凹石	本跡→SK 196
196	D2a0	N-17°-W	楕円形	1.11×0.92	58	人丸	平坦	内壁	縄文土器	SK 195→本跡
197	D2i9	-	円形	1.36×1.30	36	人丸	平坦	内壁	縄文土器	SK 207→本跡→SD 10-12
198	E2a0	-	円形	1.08×1.02	(68)	人丸	平坦	内壁	縄文土器	本跡→SD 10-12、SF 1
201	D2j9	N-23°-E	楕円形	0.70×0.60	22	人丸	平坦	緩斜	縄文土器	
202	D2i9	-	円形	0.95×0.90	836	不明	平坦	外傾	縄文土器	SK 203→本跡→SD 10-12
203	D2i9	N-55°-E	楕円形	1.28×1.15	11	不明	平坦	緩斜	縄文土器	本跡→SK 202-208、SD 10
205	D2a9	-	円形	0.98×0.98	18	人丸	皿状	緩斜	縄文土器	本跡→SK 204-SD 12
206	D2a9	N-28°-E	楕円形	2.28×2.00	36	人丸	平坦	内壁	縄文土器	本跡→SD 12
207	D2j9	N-68°-E	楕円形	0.86×0.48	18	不明	平坦	外傾	縄文土器	SK 197→本跡→SD 11→SD 12
208	D2a9	N-45°-E	楕円形	0.95×0.74	7	不明	平坦	外傾	縄文土器	SK 203→本跡→SD 11-12
210	D2i8	N-19°-E	楕円形	1.29×1.07	30	人丸	平坦	緩斜	縄文土器	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 新旧関係(古-新)
				長径×短径(m)	高さ(cm)					
211	D2b8	-	円形	0.64×0.60	45	人為	平坦	外傾	縄文土器	
213	D2i9	N-17-E	楕円形	1.28×1.05	16	自然	平坦	外傾	縄文土器	本跡-SK 144
214	D3h1	-	円形	1.12×1.04	46	人為	平坦	内傾	縄文土器	本跡-SI 24

2 平安時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された遺構は、竪穴住居跡1軒である。以下、遺構の特徴と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第24号住居跡(第48～51図)

位置 調査区北部のD3h1区、標高73.4mの緩やかに傾斜する台地の斜面部に位置している。

重複関係 第151・163・214号土坑を掘り込み、南西部のコーナー部の上部を第187号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.64m、短軸3.54mの方形で、主軸方向はN-44°-Wである。壁高は17～44cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。貼床は確認面から深さ70cmほど掘りくぼめて、ロームブロックを多く含む褐色土を埋土して構築している。中央部からは長径42cm、短径38cmの楕円形状を呈した深さ20cmの床下土坑が検出され、土師器坏が逆位で出土している。掘方の土層断面の観察からは、貼床の構築過程で床下土坑が掘られた後、焼土ブロックや炭化粒子を含むロームブロック主体の褐色土を埋土して貼床が構築されている。壁下には燧溝が巡っている。

竈 北西壁西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで145cmで、燃焼部幅は75cmである。袖部は地山をわずかに掘り残して構築した基部しか確認できなかった。火床部は床面から5cmくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に110cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

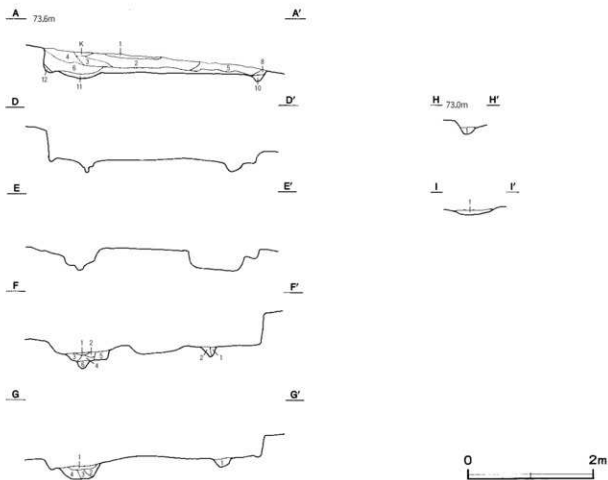
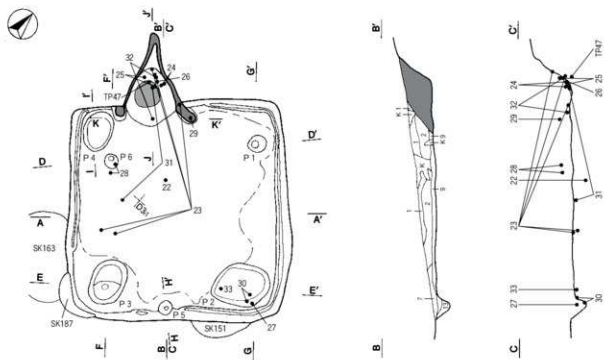
1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	8	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
3	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量	9	暗赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	10	赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
5	極暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量			
6	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量			

ビット 6か所。P1～P4は深さ15～25cmで、硬化面の広がりや配置から主柱穴である。P5は深さ10cmで、南東部壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うビットと考えられる。P6は深さ7cmで、性格不明である。

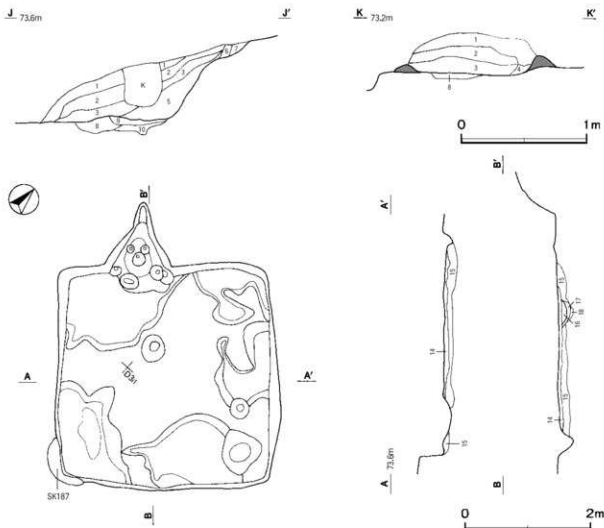
ビット土層解説(各ビット共通)

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	4	暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量
2	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	5	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック多量

覆土 13層に分層できる。多くの層にロームブロックを含み不規則な堆積状況を示していることから埋戻されている。第14層は貼床構築土、第15層は掘方への埋土である。第16～18層は床下土坑の覆土である。



第48图 第24号住居跡实测图(1)



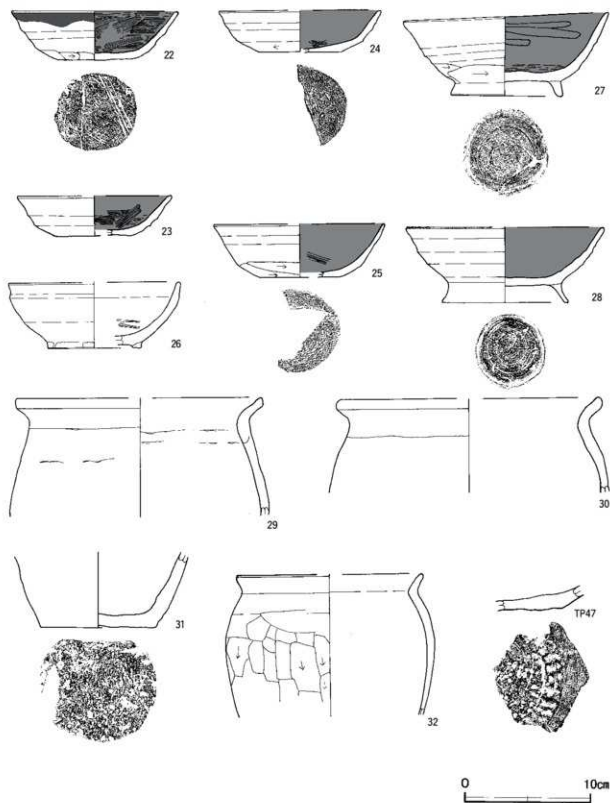
第49図 第24号住居跡実測図(2)

土層解説

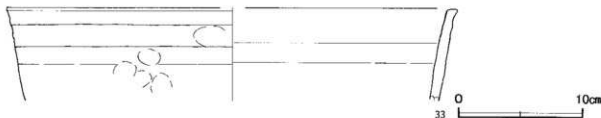
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量 | 12 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 17 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 | | |
| 10 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片219点(坏59, 高台付碗18, 甕類142), 須恵器片2点(甕)が出土している。また, 混入した縄文土器片69点(深鉢)も出土している。22は, 中央部の床下土坑から逆位の状態で出土している。24~26・32は, 竈の覆土下層から出土した破片が接合したものである。TP47は, 竈火床部から出土している。23・31は, 西部と竈の覆土下層から出土した破片が接合したものである。29は, 竈袖部の上層から出土したものである。27・30・33は, 東コーナー部付近の覆土下層からそれぞれ出土している。28は西部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉に比定できる。中央部の床下土坑からは出土している土師器杯は、出土位置や出土状況から、貼床の構築過程で地鎮に関連する何らかの行為が行われた可能性が考えられる。



第50図 第24号住居跡出土遺物実測図(1)



第51図 第24号住居跡出土遺物実測図(2)

第24号住居跡出土遺物観察表(第50・51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
22	土師器	坏	13	3.9	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部下縁手持ちへう張り 内面へう磨き	床下土坑	100% PL11
23	土師器	坏	[12.1]	3.1	[6.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転へう張り 内面へう磨き	覆土下層	40% PL11
24	土師器	坏	[13.0]	3.3	[6.8]	長石・雲母・黒色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転へう張り 内面へう磨き 摩滅の為不明瞭	覆土下層	30% PL11
25	土師器	坏	[13.6]	4.2	[6.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転へう張り 内面へう磨き	覆土上層	40% PL11
26	土師器	高台付物	[13.5]	5.2	[7.2]	長石・雲母・黒色粒子・赤色粒子	暗赤褐	普通	底部回転へう張り 高さ不揃り付け 内面へう磨き 摩滅の為不明瞭	覆土上層	20%
27	土師器	高台付物	16.4	6.7	9.0	長石・雲母・黒色粒子	橙	普通	底部下縁底部回転へう張り後、高台張り 付け 内面へう磨き 摩滅の為不明瞭	覆土下層	70% PL11
28	土師器	高台付物	[15.5]	6	10.0	長石・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	底部回転へう張り後高さ不揃り付け 内面へう磨き摩滅の為不明瞭	覆土中層	45% PL11
29	土師器	壺	[19.4]	(9.4)	-	長石・石英・雲母・小砂・黒色粒子	橙	普通	口縁部ナデ 外内面磨削 へう張り 内面摩滅	覆土上層	10%
30	土師器	壺	[20.4]	(7.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土下層	5%
31	土師器	壺	-	(5.0)	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外部外・内面摩滅 2次焼熱痕有り	覆土下層	10% PL11
32	土師器	小形壺	[14.7]	(11.2)	-	長石・雲母・黒色粒子・赤色粒子・小砂	明赤褐	普通	口縁部ナデ 外部外部へう張り 内面摩滅	覆土上層	20% PL11
33	土師器	瓶	[36.0]	(7.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部ナデ 外面磨削痕	覆土下層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP47	土師器	高台付物*	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	底部に高台の剥離面*	竈穴床部	PL11

3 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、溝跡4条、土坑1基、道路跡1条が確認できた。以下遺構及び遺物について記述する。

(1) 溝跡

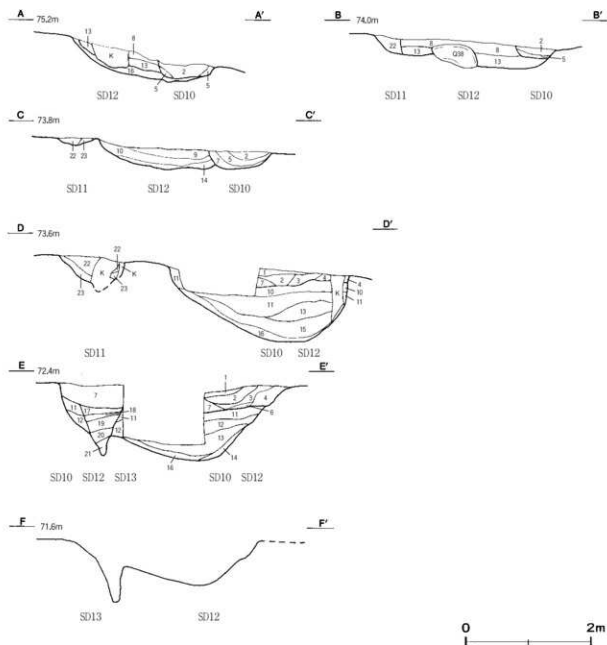
当遺跡で規模の大きな第10号・12号・13号溝跡について特徴と遺物については文章で記載し、第11号溝跡については、土層解説及び一覧表で示す。

第10号溝跡(第52・53図)

位置 調査区北部のD2g9区から南部のB3c1区にかけて、標高748～722mの緩やかな斜面上に位置している。

重複関係 第12・13号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北両端ともに調査区域外へ延びているため、確認した長さは31.7mであり、南方向(N-10°-W)に広がりがながら直線的に延びている。上幅3.6～0.6m、下幅2.8～0.2m、深さ34cmである。断面形状はU字形で、壁は緩斜して立ち上がっている。



第52図 第10・11・12・13号溝跡実測図

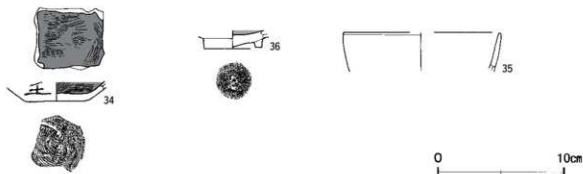
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックを含んでおり、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|--------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐 色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 7 暗 褐色 | ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 4 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片7点（坏）、大塚期の陶器2点（天目茶碗・丸鉢）、混入した縄文土器片156点（深鉢）が出土している。34～36は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土陶器から15世紀中葉と比定できる。



第53図 第10号溝跡出土遺物実測図

第10号溝跡出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
34	土師器	坏	-	(1.6)	[4.6]	灰石石灰部母土を粒子	にぶい橙	普通	底面削れ込み切り 内面へう磨き 葉書「王」	覆土中	10%	PL12
35	陶器	丸碗	[12.4]	(3.1)	-	緻密	にぶい黄橙	良好	ロクロ成形	覆土中	5%	PL12
36	陶器	丸碗	-	(1.4)	4.6	緻密	灰黄	良好	削りだし 鉄軸	覆土中	5%	PL12

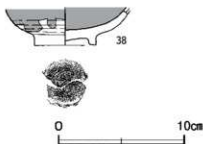
第12号溝跡（第52図）

位置 調査区北部のD2g9区から南部のE3c1区にかけて、標高74.8～72.2mの緩やかな斜面上に位置している。

重複関係 第10・11・13号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区を北西端から南東端へと調査区外に延びているため、確認した長さは31.7mであり、南東方向N-16°-Wに緩やかにカーブしながら延びている。上幅3.2～2.46m、下幅1.12～0.58m、深さ68cmである。断面形はU字形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックを含んでおり、1～6層は埋め戻されているが、7～9層はレンズ状に堆積していることから自然堆積である。



第54図 第12号溝跡出土遺物実測図

遺物出土状況 混入した縄文土器片（ミニチュア土器1点・深鉢480点）、陶器1点（丸碗）、土製品1点（土鍋）、石器・石製品2点（凹石・石棒カ）が出土している。38・DP3・Q34・Q38は、覆土中から出土している。

所見 時期は、第186号土坑を掘り込んでいることや、第10号溝跡に掘り込まれていることから、中世と推測できる。

第12号溝跡出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
38	陶器	丸碗	-	(2.9)	4.8	緻密	浅黄	良好	底部削りだし 鉄軸	覆土中	3%	PL12

第13号溝跡 (第52図)

位置 調査区西部のE 2b9区から南部のE 2c0区にかけて、標高72.9～71.4mの緩やかな斜面上に位置している。

重複関係 第11・12号溝跡を掘り込み、第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区を西から南に横断している。確認した長さは10.0mであり、緩くカーブしながら南東方向N-50°-Wに延びている。上幅1.23～0.60m、下幅0.13～0.08m、深さ75cmである。断面形はV字形で、壁は外傾して立ち上がっている。

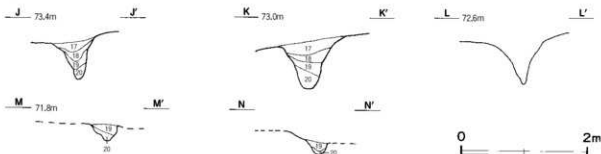
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積をしていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|--------|------------------|
| 17 黒褐色 | ロームブロック・細礫微量 | 20 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 18 黒褐色 | ロームブロック少量、細礫微量 | 21 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 19 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

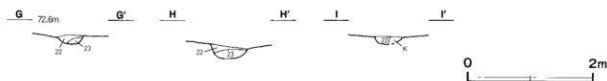
遺物出土状況 混入した石器1点(磨石)が出土した。Q35は覆土中から出土している。

所見 時期を特定できる遺物がないが、第11・12号溝跡を掘り込み、第10号溝に掘り込まれていることから、中世と推測できる。



第55図 第13号溝跡出土遺物実測図

第11号溝跡 (第56図)



第56図 第11号溝跡実測図

第11号溝跡土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|-------|------------------|
| 22 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 23 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
|--------|-----------------|-------|------------------|

表3 中世溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模			断面	覆土	壁面	主な出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)					
10	D 2c0 E 2c0	N-10°-W	直線	(31.7)	360-060	280-022	34	U字形	人為	磁片 天目茶碗 丸枕	SD11・12・13-SF1→本跡
11	D 2b9 E 2c0	N-0°	直線	(11.2)	047-012	016-006	20	U字形	人為	外組	SD12-SF1→本跡→SD10-13
12	D 2c0 E 2c0	N-16°-W	ほぼ直線	(31.7)	330-246	112-038	68	U字形	人為	外組 丸枕	本跡→SD10-11・13-SF1
13	E 2b8 E 2c0	N-50°-W	ほぼ直線	(10.0)	114-046	013-008	75	V字形	人為	外組	SD11・12→本跡→SD10

(2) 土坑

第186号土坑 (第57図)

位置 調査区南部のE 2b0区、標高71.8mの穏やかに傾斜する段丘面に位置している。

重複関係 第146号土坑を掘り込み、第10・12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.78m、短径0.52mの楕円形で、長径方向はN-30°-Wである。深さは26cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

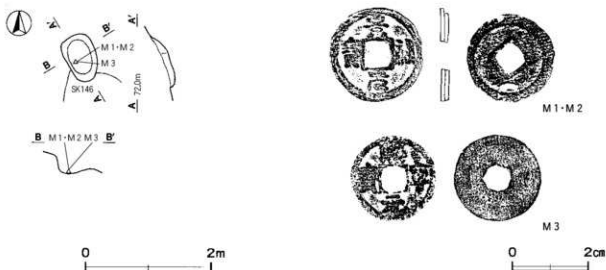
覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 中央部の底面から銭貨が3枚出土している。熙寧元寶(初鑄1068年)と景祐元寶(初鑄1034年)が確認できた。景祐元寶は2枚が癒着した状態で出土し、2枚目は癒着が強く確認できなかった。

所見 時期は、第12号溝に掘り込まれていることや、出土銭貨から中世に比定できる。



第57図 第186号土坑・出土遺物実測図

第186号土坑出土遺物観察表 (第57図)

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	銭貨	2.4	0.65	0.1	5.7	銅	景祐元寶 初鑄1034年 2枚癒着している1枚目	E2b0	PL16
M2	銭貨	2.3	0.65	0.1			銭名不詳 2枚癒着している2枚目	E2b0	PL16
M3	銭貨	2.3	0.6	0.1			2.9	熙寧元寶 初鑄1068年	E2b0

(3) 道路跡

当時期の道路跡1条を確認した。平面図については遺構全体図に掲載する。

第1号道路跡

位置 調査区中央部のE 2a9区からE 2a0区にかけて、標高73.2mに位置している。

重複関係 第10・11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区の中央を東西に延びているが、西端を第11号溝に、東端を第10号溝に掘り込まれているため、長さは1.7mしか確認できなかった。東西方向（N-58°-E）に直線的に延びている。第12号溝跡の覆土上層が踏み固められたものと思われ、硬化面の上幅は0.5～0.55m、厚さは約10cmで、硬化面の覆土はローム粒子を含む黒褐色土が主体である。硬化面の断面は台形状となっている。

路面 硬化面は単一層である。

土層解説

1 褐 褐色 ローム粒子少量

所見 時期は、決定の根拠となる遺物が出土していないが、第12号溝跡や第10・11号溝との重複関係から中世と推測できる。

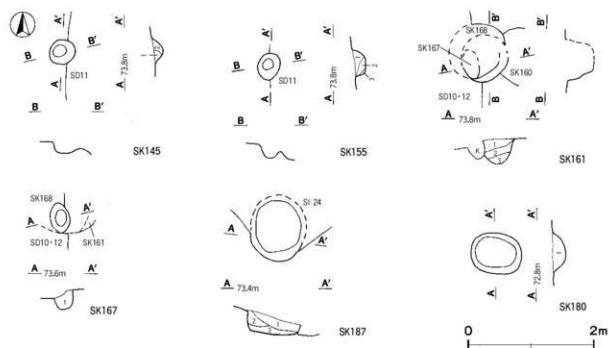


第58図 第1号道路跡実測図

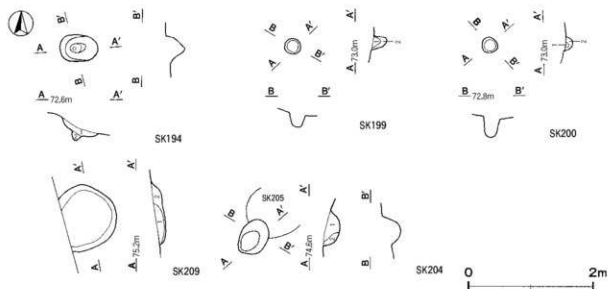
4 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明らかでない土坑11基について、実測図と一覧票を掲載する。

(1) 土抗



第59図 その他の土坑実測図 (1)



第60図 その他の土坑実測図(2)

第145号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第155号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第161号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 白色パミス粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第167号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第180号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第187号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第194号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第199号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第200号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第204号土坑土層解説

- 1 に近い黄褐色 ロームブロック少量
- 2 黄褐色 ロームブロック中量

第209号土坑土層解説

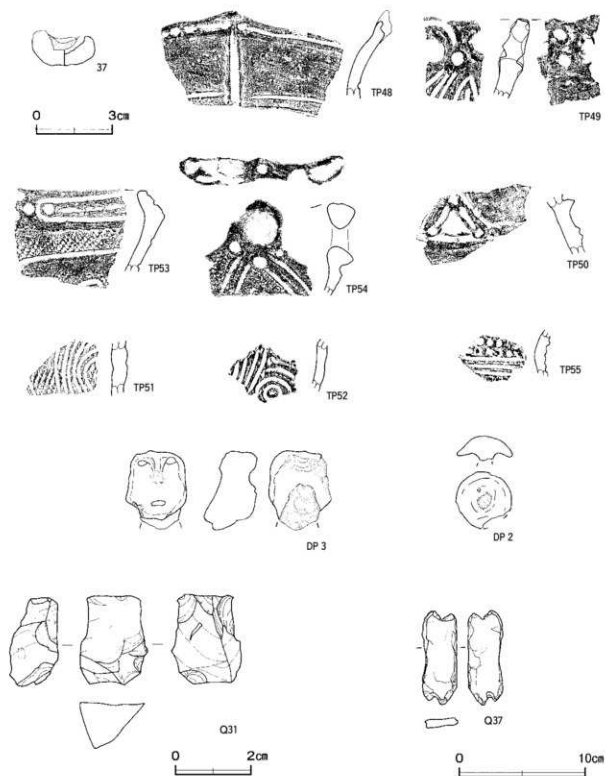
- 1 褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

表4 その他の土坑一覧表

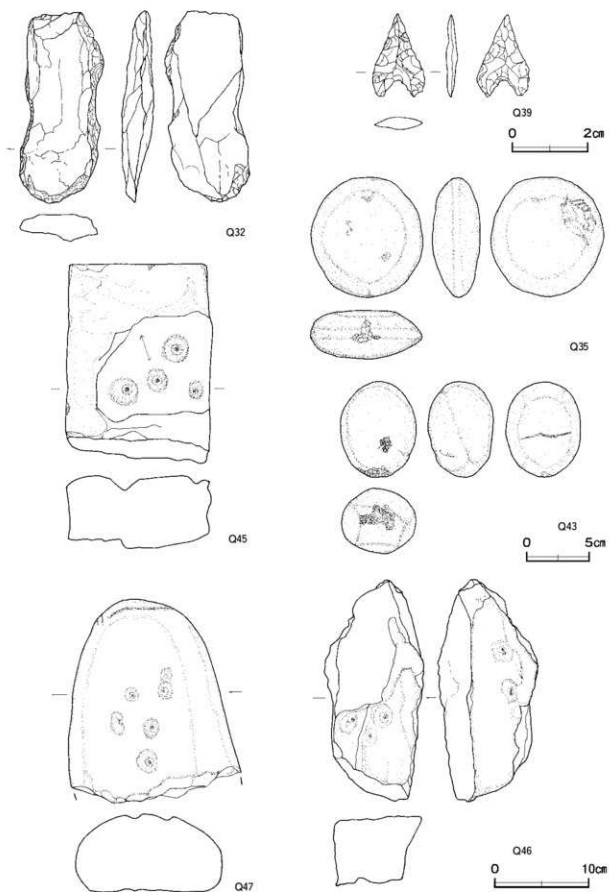
番号	位置	長径方向	平面形	規模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(m)					
145	E2a9	-	円形	0.40×0.40	20	人為	平坦	緩斜・直立		本跡→SD 11
155	E2a9	N-23°-E	楕円形	0.42×0.33	22	人為	平坦	緩斜		本跡→SD 11
161	D2i0	N-76°-E	[楕円形]	(0.48×0.24)	(42)	人為	(平坦)	緩斜		SK 160→本跡→SK 167-168 →SD 10-12
167	D2i0	N-77°-E	[楕円形]	(0.50×0.33)	28	人為	平坦	緩斜		SK 160-161-168→本跡 →SD 10-12
180	D3b1	N-90°-W	[楕円形]	(0.78×0.65)	8	不明	皿状	緩斜		SK 181→本跡
187	D3b1	-	楕円形	1.05×0.88	30	人為	平坦	直立		SI 24→本跡
194	E2a0	N-90°-E	楕円形	0.62×0.42	30	人為	皿状	外傾		本跡→SD 12
199	D3b1	-	円形	0.25×0.25	19	人為	平坦	外傾		
200	D3b1	-	円形	0.25×0.25	32	人為	平坦	ほぼ直立		
204	D2b9	N-43°-E	楕円形	0.68×0.48	25	人為	皿状	外傾		SK 205→本跡
209	D2b8	N-11°-W	[楕円形]	1.00×(0.86)	8	人為	皿状	外傾		

(2) 遺構外出土遺物

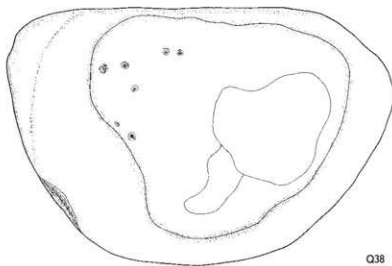
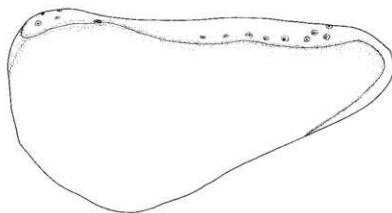
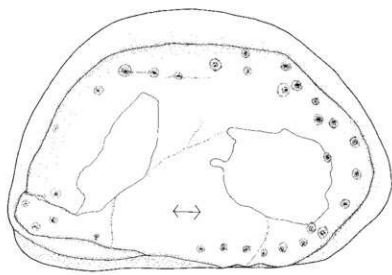
表土除去、遺構確認の段階で、遺構に伴わない遺物が出土している。以下特徴的な遺物を抽出して、実測図を掲載し、解説を観察表で記述する。



第61図 遺構外出土遺物実測図(1)



第 62 图 遺構外出土遺物実測図 (2)



Q38



第 63 図 遺構外出土遺物実測図 (3)

遺構外出土遺物観察表 (第61～63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	縄文土器	ヒコヤブ土器	(1.9)	(1.4)	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐色	普通	指突文	SD12	90%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP48	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	口縁波長部に刺突痕 沈線がまわる	北部表土	PL14
TP49	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	刺突痕 重弧文	北部表土	PL14
TP50	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	隆帯で三角形 コーナ一部に刺突痕	南東部表土	PL14
TP51	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	集合沈線	南部表土	PL14
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	沈線文間を磨き	南西部表土	PL14
TP53	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい橙	縄文LR→光焼→黒文部磨き 内面磨き	北部表土	PL14
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	縄文LR→沈線文 内面磨き	SI24 甕土中	PL14
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	橋位に沈線 半截竹管文	SI24 甕土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	きのこ型土製品	4.4	4.4	(1.9)	(23.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	一部欠損 ナデ成形	中央部表土	PL12
DP3	土偶	(6.1)	(4.9)	(4.2)	(80)	長石・石英・針状鉱物	頭部 刺突文 ナデ成形	SD12	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q31	割片	2.3	1.8	1.3	3.9	黒曜石	敲打痕	SD-10	PL16
Q32	打製石斧	15.1	6.7	2.5	270	頁岩	両面調整 撥型	SD-10	PL16
Q33	石剣 ^α	(3.7)	(2.5)	(1.4)	(12.6)	頁岩	大部分欠損 調整	SD-10	計測のみ
Q34	石棒 ^α	(21.1)	7.3	3.1	(810)	変成凝灰岩	表面、裏面一部研磨 断面楕円形	SD-12	計測のみ
Q35	磨石	9.5	3.8	3.8	430	安山岩	両面磨痕	SD-13	PL15
Q36	割片	4.4	3.4	1.75	17.8	頁岩	敲打痕	中央部表土	計測のみ
Q37	石鎌	7.4	2.75	0.75	22	緑色片岩	両端部を打ち欠き	北部表土	PL16
Q38	四石・石皿	77.0	51.5	40.3	178	砂岩	凹痕表31・裏8か所 石皿面1か所	SD-12	PL16
Q39	石鎌	2.2	1.4	0.35	0.6	チャート	両面押圧割離 凹基無基痕	南東部表土	PL16
Q40	割片	2.6	2.5	0.7	0.4	チャート	打ち欠き	南東部表土	計測のみ
Q41	割片	2.5	2.2	0.6	0.31	チャート	打ち欠き	南東部表土	計測のみ
Q42	割片	3.1	2.9	1.1	9.9	チャート	打ち欠き	中央部表土	計測のみ
Q43	磨石	6.0	7.5	5.1	310	閃緑岩	全面磨り痕	中央部表土	PL15
Q44	磨石	(3.8)	(3.8)	(2.4)	(53.9)	砂岩	大部分欠損 磨り痕2か所	中央部表土	計測のみ
Q45	四石	16.0	11.6	5.7	1760	頁岩	凹痕表4か所	中央部表土	PL15
Q46	四石	23.5	11.0	7.5	2240	砂岩	凹痕表3・裏2か所	中央部表土	PL15
Q47	四石	21.5	18.2	8.2	5200	緑色片岩	凹痕表6か所	中央部表土	PL15

第4節 ま と め

1 はじめに

当遺跡は、平成16年度に第1次調査（平成16年7月～16年9月）を行い、今回が第2次調査である。

今回の調査では、堅穴住居跡1軒（平安時代）、土坑73基（縄文61、中世1、時期不明11）、溝跡4条（中世）、道路跡1条（中世）を確認し、当遺跡が縄文から中世にかけての複合遺跡であることが確認できた。

ここでは、確認された各時代の様相について概観するとともに、主に縄文時代の遺構と遺物について若干の考察を加え、まとめとしたい。

2 遺跡の様相

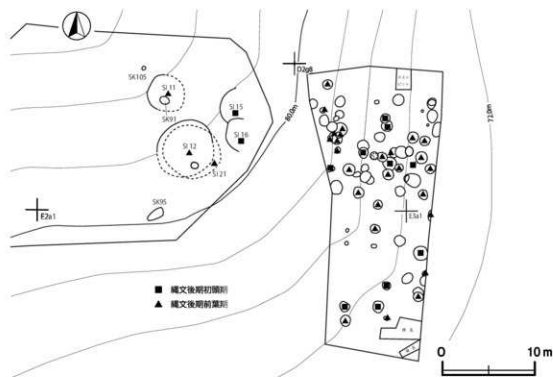
(1) 縄文時代

当時代の遺構は、後期初頭から後期前葉にかけての土坑61基が確認できた。

前回の調査では中期後半（加曾利EIV式期）の住居跡4軒、後期初頭の第15・16号住居跡（称名寺I～II式期）、第11・12・21号住居跡（堀之内1～2期）が確認されている。特に、これらの住居跡は今回の調査区に隣接し、時間的にも一致することから、土坑群はこれらの住居跡と同時期に使用されていたと考えられる。

土坑の性格は、隣接する十王堂遺跡から、多量の炭化したクルミが出土した第562号土坑（称名寺I式期）が確認されたことや、今回の当遺跡の調査で確認された土坑群から、凹石、磨石が出土したことから、主に住居に伴う貯蔵施設や廃棄施設として利用されたと考えられることができる。

中期後半から後期前半にかけて、木の実等の採集や狩猟など環境に恵まれた、当集落が形成されていたと想定できる。



第64図 縄文時代遺構配置図

後期中葉以降は、土器の出土量が激減している。隣接する十王堂遺跡でも、後期後半以降は集落が平坦部や谷部に移動したことが確認されていることから、当遺跡でも集落が移動したものと考えられる。

(2) 平安時代

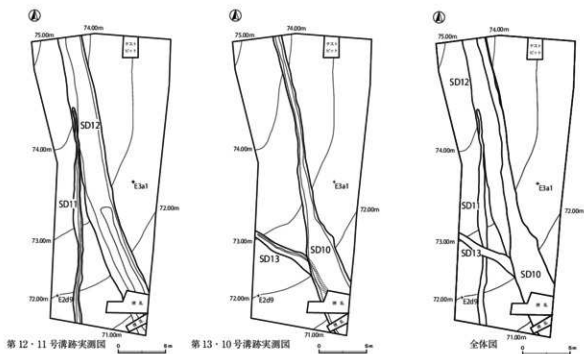
当時代の遺構は、堅穴住居跡1軒が確認できた。堅穴住居跡は竈の煙道が長く、東北地方との関連が窺えることから、本県北部地域と東北地方南部との交流を示す資料になると考えられる。時期は、出土土器から10世紀前半と比定できる。

同時期の住居跡が、前回の調査で7軒、隣接する十王堂遺跡でも6軒確認されており、今回の調査で当該期の集落の広がりを確認することができた。また、両遺跡とも10世紀前半までに集落が廃絶するという共通する特徴をもっている。

縄文時代以降、生活の痕跡の無かったこの台地の斜面部に10世紀に入り集落が形成され、短期間で廃絶していることは、この地方の10世紀以降の社会変化をとらえていくための資料になる。

(3) 中世

当時代の遺構は、溝跡4基、土坑1基が確認できた。溝跡はいずれも南の方へ向き、治承元年(1177)に平氏大掾宗幹が大久保の愛宕山(標高130m)に築いた大窪城の方に向いているとも思われるが、今回の調査では明確な根拠は得られなかった。



第65図 溝跡変遷図

3 縄文時代の遺構と遺物

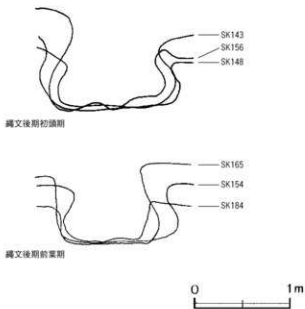
(1) 土坑

土坑は61基が確認できた。この中には壁が底面から内彎する土坑が17基、円筒形土坑が2基含まれる。

当遺跡で確認した壁が底面から内彎する土坑は、規模に大小が見受けられ、平均的な規模の比較を算出してみると、開口部の長径は1.13cm、底部の長径は0.98cm、深さは61.54cmである。

また、壁が底面から内彎する形状が顕著な土坑で後期初頭（称名寺式期）に該当する3基、と後期前葉期（堀之内1式期まで）に該当する3基を、それぞれ土層図で比較してみると、後期初頭までは土坑の壁の内彎がみられるものの、後期前葉の時期には、一方向のみの内彎で、内彎する傾向が弱まることが確認できた。

縄文後期中葉以降の土坑が確認されず、その後の変遷は追えないが、壁が底面から内彎する形状が縄文後期前葉以降は失われていったことが考えられる。



第66図 時期別の土坑断面比較図

(2) 縄文土器

出土土器は、後期初頭の称名寺Ⅰ・Ⅱ式、後期前葉の網取式Ⅰ・Ⅱ式、堀之内Ⅰ・Ⅱ式である。網取Ⅱ式・堀之内Ⅱ式以降は土器の出土量が激減している。

称名寺式土器の特徴は、沈線によってJ字状・S字状の区画文を施し、Ⅰ式期では区画内・外に単節縄文、Ⅱ式期では口唇の一部に添付文や沈線を施していることが挙げられる。第146・148・156号土坑から称名寺Ⅰ式、第172号土坑から称名寺Ⅱ式の資料が出土している。また143号土坑からも称名寺式の資料が出土している。

網取式土器は、口縁部無文帯にノ字状やC字状の隆帯を貼り付け、地文に粗い縄文や撚糸文、格子目文、櫛歯状工具による集合沈線文を施し、Ⅰ式期では鉤状文、Ⅱ式期では蛇行沈線文など、堀之内式の影響を受けたモチーフが表現されている。第147・157・165・175号土坑から網取Ⅰ式、第142・192号土坑から網取Ⅱ式の資料が出土している。また、第184・188・190号土坑からも網取式の資料が出土している。

堀之内式土器は、Ⅰ式期では渦巻文や4～6本を1単位とする集合沈線によって懸垂文・斜行文を施し、Ⅱ式期では沈線でX字状などの直線的なモチーフを描き、区画内に充填縄文と複数の沈線を施している。また、3または4単位の波状口縁で地文に粗い単節縄文を施した粗製土器が伴っている。第154号土坑から堀之内Ⅰ式、第160号土坑から堀之内Ⅱ式の資料が出土している。

後期初頭から後期前葉にかけての特徴として、北関東地方と南東北地方の土器様相が混在していることがあげられる。

(3) 石器・石製品

石器・石製品は、38点出土している。内訳は、石器が石鏃1点、磨製石斧1点、打製石斧2点、磨石7点（5点が磨石と兼用）、凹石24点（1点が石皿と兼用）、石製品が石棒・石剣3点である。用途は、加工・調理具（磨石・磨石・凹石・石皿）が主体である。石材は緑色片岩・千枚岩などの多賀山地南部の基盤層を構成する日立変成岩類、次いで砂岩、頁岩、チャート、珪環など在地で産出される石材が用いられている。このことから当遺跡から出土した石器・石製品は、遺跡周辺で調達し、調整・加工したと考えられる。

4 おわりに

以上、根岸西遺跡の遺跡の様相、及び遺構と遺物について述べてきた。今回の調査で、当遺跡が縄文時代後期初頭～前葉、平安時代、中世の各時代に土地利用がなされていたことが判明した。

縄文時代の土坑群からは、当時の土地利用を垣間見ることができ、出土した縄文土器からは北関東と南東北地方の土器型式が共存する多様な様相を示していることが確認できた。また、北関東と南東北地方の交流といった点では、平安時代の住居跡にも東北地方の影響がみられることから、各時代を通じて人的・物的な交流があったことが窺える。

集落構造や土器様相の詳細など、当遺跡の全容については調査事例を含めたさらなる分析が必要であるが、今回の調査成果が当地域における歴史解明の一助となれば幸いである。

註

縄文土器の編年については、以下の文献に依拠した。

大川清・鈴木公雄・工業善通編『日本土器事典』雄山閣 1996年12月

小林達雄編『総覧 縄文土器』アム・プロポジション 2007年12月

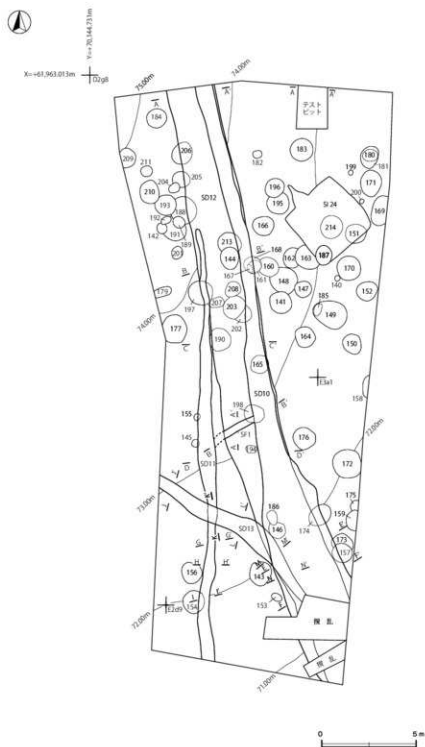
戸沢光則編『縄文時代研究辞典』東京堂出版 1994年9月

石器・石製品の石材については、以下の資料を参照とした。

柴田徹『河原の石のC/D岩石鑑定図鑑』有限会社考古石林研究所 2005年2月

参考文献

- ・日立市史編さん委員会『新修 日立市史』上巻 1994年9月
- ・湯原勝美・松田政基「上の内遺跡発掘調査報告書」『日立市文化財調査報告書第46集』日立市教育委員会 1998年3月
- ・小川和博「上の内遺跡発掘調査報告書」『日立市文化財調査報告書』第61集 日立市教育委員会 2002年3月
- ・松本茂「東北横断自動車道遺跡調査報告11 法正尻遺跡」『福島県文化財調査報告書』第234集 財団法人福島県文化センター 1991年3月
- ・黒沢秀雄「茨城県の縄文時代中期のフラスコ状土坑について」『研究ノート3号』財団法人茨城県教育財団 1993年6月
- ・塚本節也「茨城県における袋状土坑の概観」『考古学の深層』瓦吹堅先生追悼記念論文集刊行会 平成2007年1月
- ・野中和夫「フラスコ状土坑の終焉―埼玉県和光市丸山台遺跡の事例を中心として―」『土曜考古』第21号 1997年10月
- ・渡瀬浩実「根岸西遺跡 主要地方道日立笠岡線道路改良工事地内埋藏文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第261集 2006年3月
- ・齋藤貴史・清水行「十王堂遺跡 主要地方道日立笠岡線道路改良工事地内埋藏文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第332集 2010年3月



第 67 図 根岸西遺跡平成 22 年度調査区遺構確認図

写 真 图 版



縄文土器集合



調査区遠景（北側から）



調査区全景（上空から）

PL2



第24号住居跡
完掘状況



第24号住居跡
掘方完掘状況



第24号住居跡
床下土坑
遺物出土状況

第 142 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 143 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 147 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



PL4



第 150 号 土 坑
完 掘 状 况



第 154 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 156 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况

第 164 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 165 号 土 坑
上 層 遺 物 出 土 状 况



第 165 号 土 坑
中 層 遺 物 出 土 状 况



PL6



第 165 号 土 坑
下層遺物出土狀況



第 172 号 土 坑
遺物出土狀況



第 188 号 土 坑
遺物出土狀況

第 190 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 192 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 214 号 土 坑
完 掘 状 况



PL8



第 10 号 溝 跡
完 掘 状 況



第 12 号 溝 跡
完 掘 状 況



第 13 号 溝 跡
完 掘 状 況



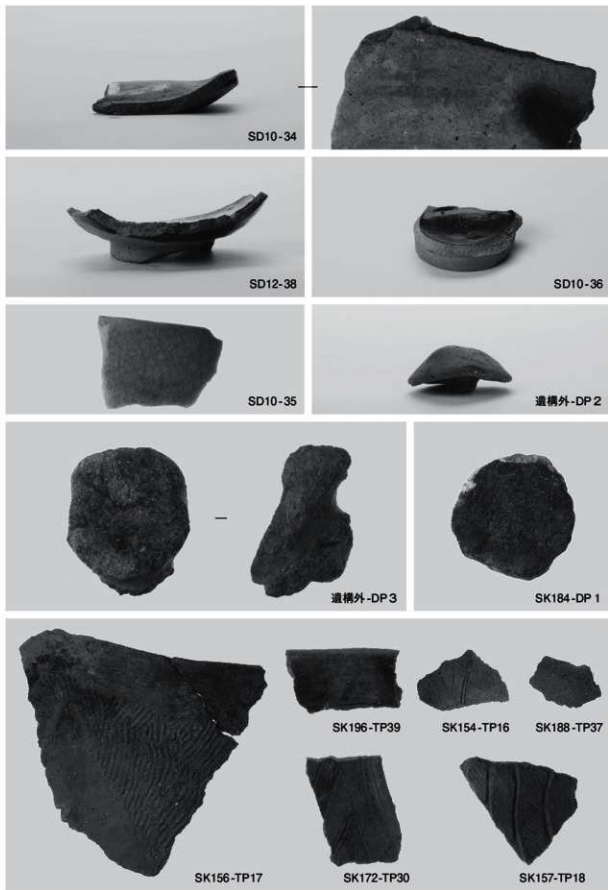
PL10



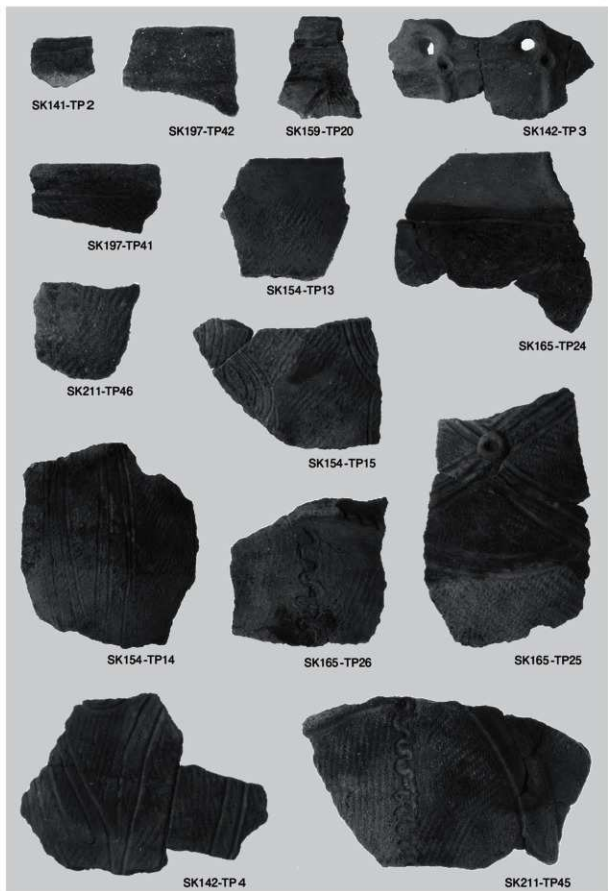
第147·148·157·172·188·190·192号土坑出土土器



PL12



第10・12号溝跡, 第154・156・157・172・188・196号土坑出土土器
第184号土坑, 遺構外出土土製品



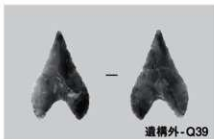


第143・144・147・149・152・158・164・174・177・179・184・188・189・196・198・201号土坑、
遺構外出土土器



出土石器（磨石・凹石）

PL16



出土石器 (剥片・石鏃・打製石斧・石錘・凹石・石刺), 銅製品 (錢貨)

抄 録

ふりがな	ねぎしにしいせき							
書名	根岸西遺跡2							
副書名	主要地方道日立笠間線道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第357集							
著者名	長津盛男							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2012(平成24)年3月16日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査 面積	調査原因
根岸西遺跡	茨城県日立市 大久保町字根岸 2473番地ほか	08202 - 099	36度 33分 27秒	140度 37分 09秒	70.0 ~ 75.0 m	20110101 ~ 20110331	421 m ²	主要地方道日立笠間線道路 整備事業に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
根岸西遺跡	集落跡	縄文時代	土坑 61基		縄文土器(深鉢・鉢・浅鉢・注口土器)、土製品(土器片・円盤・きのこ形土製品) 石器・石製品(剥片・石鏃・打製石斧・磨製石斧・石皿・磨石・敲石・石錘・凹石・石棒・石剣)		縄文後期初頭から後期前葉にかけての土坑群が確認された。また、後期初頭の縄文土器には東北地方南部の影響を受けられた。	
		平安時代	竪穴住居跡 1軒		土師器(坏・高台付坏・高台付碗・甕・甗)			
		中世	溝跡 土坑 1基 道路跡 1条		陶器(丸碗)、銅製品(銭貨)			
		時期不明	土坑 11基					
要約	本遺跡は、縄文時代、平安時代、中世の各時代の複合遺跡である。今回の調査では、前回の調査と合わせて縄文時代、平安時代の集落の広がりが確認できた。また、遺構外から土師器坏片の墨書土器も出土している。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 7 Home Premium ServicePack1
編集		Adobe InDesign CS5
図版作成		Adobe Illustrator CS5
写真調整		Adobe Photoshop CS5
Scanning		6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
		図面類 EPSON GT-X750
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第357集

根岸西遺跡 2

主要地方道日立笠間線道路改築
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成24（2012）年 3月14日 印刷

平成24（2012）年 3月16日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 富士オフセット印刷株式会社

〒310-0067 水戸市根本3-1534-2

TEL 029-231-4241

